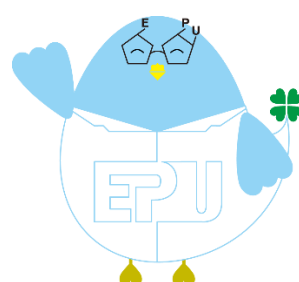
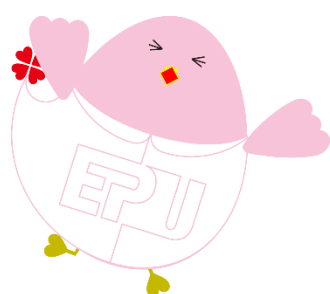


地域交流センター活動報告書

令和元年度



公立大学法人

愛媛県立医療技術大学

目次

I 地域交流センターの設置目的及び機能	2
II 地域交流センター事業報告	
人材育成機能	
1. 卒業生と在学生の交流事業 「ホームカミングデー」	4
2. 臨床検査技師実践セミナー	12
3. 思春期保健スキルアップ研修会	14
4. 高校生の生命科学体験プログラム えひめ高校生生体機能研究プログラム ー心臓拍動の解剖生理ー	18
5. ブック&メディカルトーク	20
6. 地域包括ケアシステム強化のための人材育成支援事業	22
7. 麻生小学校児童の大学見学	24
III 調査研究	
1. 住民主体の地域づくりが実践できる保健福祉の人材育成 ーアクションリサーチによる研修の開発・評価ー今治に関する意識調査	29
IV 教員の社会貢献活動報告	
1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援	31
2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画	34
3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応	35
4. 患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援	38
5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動	42
6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱された ボランティア活動等）	56
V 学生の地域交流活動報告	
1. 学生ボランティア登録制度	58
2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流	59
VI 地域への施設開放状況	66
VII 参考資料	
1. 地域交流センターの組織	68
2. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程	69
3. 愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程	71
4. 学生ボランティア登録サイトの開設について	73

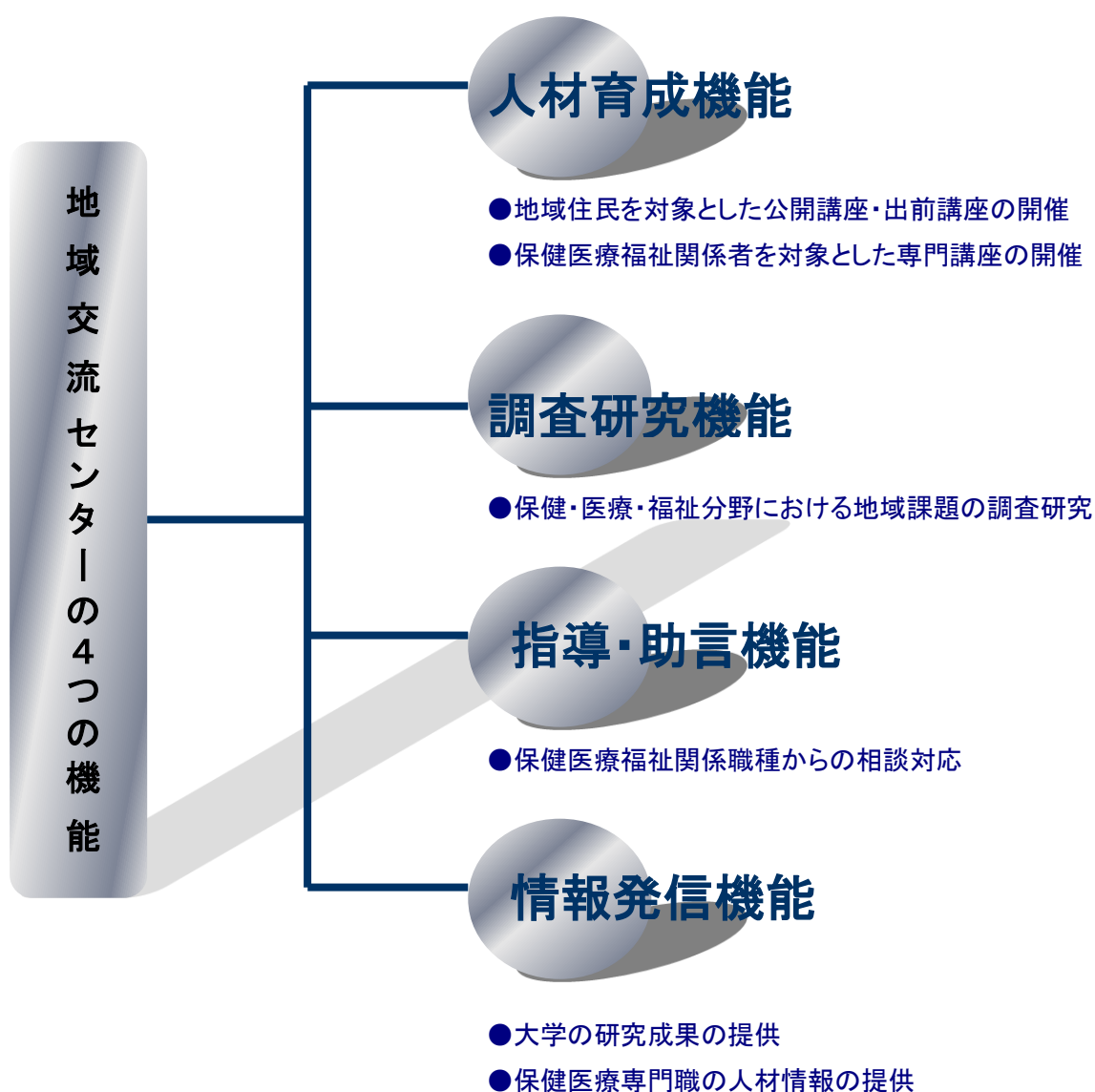
I 地域交流センターの 設置目的及び機能

I 地域交流センターの設置目的及び機能

1 設置目的

愛媛県立医療技術大学が、地域に開かれた大学を目指し、大学の教育研究機能と市町村をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図り、医療の高度化や地域ニーズの多様化に対応できる質の高い保健医療従事者の育成を行うとともに、大学が保有する専門的な知識や技術を地域に還元することにより、県民すべての保健・医療・福祉の増進に寄与することができるよう、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点となる地域交流センターを、大学の開学と同時に、平成 16 年 4 月に設置した。

2 地域交流センターの 4 つの機能



Ⅱ 地域交流センター 事業報告

I 地域交流センター事業報告

人材育成機能

1. 卒業生と在学生の交流事業 令和元年度第9回「ホームカミングデー」

1) 趣旨

愛媛県立医療技術短期大学・大学の卒業生が、本学に帰ってきて旧交を温める機会を提供するとともに、社会人となった卒業生が技術に関する集談会や活動報告を行うことにより、在学生の職業意識の向上を図る。

2) 実施主体・連携協力機関

本学同窓会（木蓮会）と地域交流センターの共催事業とする。

3) プロジェクトメンバー

実行委員長：窪田静准教授（地域交流センター員）

実行委員：豊田センター長、地域交流センター員

田中昭子准教授、藤原助教、坂元助教（看護師分野）

中越准教授、今村講師、伊藤助教（助産師分野）

田中美延里准教授、奥田講師、入野講師（保健師分野）

山岡准教授、佐川助教（臨床検査技師分野）

＊ほかに、技術教育担当教員、ボランティア教職員

4) 事業内容

(1) 日時： 令和元年6月22日（土）10：00～12：20

10：00～10：20 全体会 10：30～12：20 分科会

(2) 場所： 医技大キャンパス 150・116・117・216・217・355 講義室

(3) 参加者数名 184名（卒業生73名、在校生95名、教職員16名）

(4) 実施内容

①全体会：学部長挨拶、木蓮会副会長挨拶、大学院保健医療学研究科説明会

②分科会

分科会一覧

分野	分科会テーマ	場所	ゲストスピーカー
看護師	看護師はありふれた職だと 思っていた私の今	150 116 117	仲田琴美さん (EPU 成人看護学講座)
保健師	「卒業生が伝える『普通』を守る 保健師の仕事」	217	須内裕加さん (大洲市保健センター健康づくり係) 白石美沙希さん (宇和島市保健所健康増進課精神保健係)
助産師	「助産師学生時代から 就職 10 年目を迎える私の歩み ～アドバンス助産師認証までの道 のりとこれからの抱負～」	216	山内秀美さん (松山赤十字病院)
臨床 検査 技師	在校生に伝えたい 検査技師としての心構え	355	氏家祥之さん (医療法人和昌会貞本病院検査室) 玉井結菜さん (済生会西条病院臨床検査科)

分科会報告

看護師分科会 報告書

日時：2019年6月22日（土）10：30～12：20

場所：150 教室（講演）⇒116・117 教室（グループワーク）

参加者：卒業生 37 名＋ゲストスピーカー1 名＋院生 1 名＝39 名

在校生 24 名（4 年生 2 名、3 年生 17 名、2 年生 1 名、1 年生 4 名） 合計 63 名

担当者：田中昭子、藤原紀世子、坂元勇太

内容：

1. 10：30～11：00 ゲストスピーカーのミニ講義・体験談発表（150 教室）

仲田琴美さん（EPU 成人看護学講座）から「看護師はありふれた職だと思っていた私の今」というタイトルでご講演いただいた。新任期は、患者や先輩の言葉、同期に支えられ、一つ一つ確実に習得し、患者に向き合うことを大切にしていたことが、頭部外傷患者の抑制解除の体験談を交えながら語られた。また、日々の看護体験から術後せん妄に関心を持ち院内看護研究で取り組んだこと、その後、何かにチャレンジしたいと思い大学院に進学し、引き続き、術後せん妄をテーマに研究していることが紹介された。身近な先輩の話は、新任期の励みになり、研究や大学院進学など近い将来の目標にもつながったのではないかと思います。



2. 11：10～12：20 茶話会（116・117 教室）

前日に6席×20G（117 教室に 16G、116 教室に 4G）の座席を設営した。事前申込者が、卒業生 32 名、在校生 40 名であったため、各 G に卒業生（県内、県外）1～2 名と在校生 2 名にグループ分けし、当日参加者を空席に配置できるようにした。しかし、在校生の欠席や他の分科会への変更、当日参加者も多くなかったことから、117 教室 10G、116 教室 2G の計 12G で茶話会を実施した。卒業生と在校生の交流の時間が十分とれ、よかったと思う。



保健師分科会報告

テーマ：「卒業生が伝える『普通』を守る保健師の仕事」

日時 令和元年 6 月 16 日 10:30～12:20

会場 217 教室

参加人数 合計 46 名

- ・ 在校生：27 名（1 年生 6 名、2 年生 3 名、3 年生 17 名、4 年生 1 名）
- ・ 卒業生：14 名
- ・ 教員：5 名

分科会の内容

開会 ゲストスピーカー紹介 5 分

ゲストスピーカー講話 各 20 分

大洲市保健センター健康づくり係 須内裕加さん（2016 年卒業）

宇和島市保健所健康増進課精神保健係 白石美沙希さん（2017 年卒業）

須内さんには地区分担・業務分担での各業務について、白石さんには精神保健活動、ひきこもり対策の活動を中心に、通常業務についてご紹介頂いた。また、お二人には管轄地域における昨年度の豪雨災害への対応についてもお話し頂き、参加者は保健師の日頃の活動から、有事の健康危機管理まで、幅広い活動について理解を深めることが出来た。

座談会 60 分

在校生と卒業生の混合 8～9 名のグループ編成とし、フリートークの時間を設けた。

保健師の仕事や採用試験対策、実習について等、和やかな雰囲気での情報交換が行われた。

今年度は産業保健分野で活躍する卒業生の参加もあり、参加者が看護職の多様な活躍の場へ視野を広げるきっかけとなったと考える。

卒業生紹介 5 分

閉会



助産師分科会報告書

中越利佳 伊藤美香 今村朋子

日時:令和元年 6 月 16 日 10:30～12:20 会場:216

参加人数:計 29 名—卒業生 10 名 (ゲストスピーカー1 名、卒業生 9 名)

在学生 19 名 (1 年生 1 名、2 年生 3 名、3 年生 2 名、助産専攻 13 名)

会次第:10:30～ 木蓮会助産師部会 会長 野上氏の挨拶

10:35～11:20 講演 山内秀美さん (松山赤十字病院)

「助産師学生時代から就職 10 年目を迎える私の歩み

～アドバンス助産師認証までの道のりとこれからの抱負～」

11:20～12:20 フリートーク

木蓮会助産師部会長の野上氏より毎年、HCD で助産師部の卒業生と現役の学生が交流することの意義についてご挨拶いただいた後、山内さんから大学入学前のことから、学生生活、助産師として歩んでこられた 10 年間について、たくさんの写真とともに山内さんの助産師観を交えながらご講演いただいた。

山内氏は助産師として 10 年目を迎え、学生時代の実習のエピソードや新人時代からプリセプター、実習指導者を経て、アドバンス助産師の認証を受けるまでの経緯について語られた。山内氏の助産師として常に学び続ける姿勢や、お母さんと赤ちゃんとともに歩もうとする姿勢には頭の下がる思いである。助産師 10 年目を迎えてキラキラ輝いている素敵な先輩を身近に見ることができ、頑張ろうと思った学生は多かったと思う。また、これから実習を控えて、不安の多い学生に温かいエールを送っていただき、先輩の優しさに感激した人もいたと思う。



ゲストスピーカー
山内秀美さん

フリートークでは、あちこちのテーブルから笑い声が飛び交い、和気あいあいとした雰囲気の中、話に花がさき、先輩と後輩が楽しく交流する姿が印象的であった。HCD は今年で 10 年目を迎える。先輩と後輩の絆を深め、一人一人が素敵な助産師として成長されていくことを願ってやまない。



木蓮会助産師部会
野上会長挨拶



和気あいあいとした楽しいフリートーク

臨床検査技師分科会

テーマ：在校生に伝えたい検査技師としての心構え

日時：2019年6月22日（土）10：30～12：20

会場：355 教室

担当：山岡源治、佐川輝高

ゲストスピーカー：氏家祥之さん（2006年卒）医療法人和昌会貞本病院 検査室

玉井結菜さん（2017年卒）済生会西城病院 臨床検査科

参加者数：卒業生10名、在校生25名（1年生1、2年生9、3年生6、4年生9）、
教員5名 計40名



氏家祥之さん



玉井結菜さん



講演に熱心に聞き入る卒業生と在校生



講演後卒業生を囲んで

在校生において、ともすれば将来に対するモチベーションが下がってしまう現実がある。

ゲストスピーカーのお二人には、実際の現場での体験から、患者本位の医療における臨床検査技師の在り方はどうあるべきかについて感じてきたこととお話して頂いた。

講演後の卒業生同士では近況情報の交換や、卒業生と在校生の間では現場に関する話や将来に対する相談などの話題が和気藹々と交換された。

教員からの話や緊張下での実習病院での体験とは違い、大学の建物内で、病院の技師としてではなく卒業生の先輩と在校生の後輩として話をする事は、より生き生きと将来を見つめ、卒業後の活躍へのモチベーション惹起につながったと考えられる。

5) 評価と課題

(1) ねらい・成果

例年通り、卒業生同士・卒業生と在校生の再会との場として機能し、在校生には将来のビジョンを得る有益な場となった。

前年度のアンケート結果から、全体講演をやめて開始時間を若干遅くして分科会の時間を確保した。その結果、卒業研究や国家試験などの最終学年のこれからの姿、それぞれの職場の福利厚生や労働環境、大学院の受験や授業内容といった、これまで具体的な情報が乏しかった未来像を描く素材を得る場として好評を博した。

(2) 広報戦略

卒業生に対しては、卒後1・2年生の職場上司と本人への案内文書送付、木蓮会との連携による申し込み、卒業前ガイダンスにおけるチラシの手渡しを行った。在校生は、授業を担当する教員が直接学生の参加を募った。

(3) 運営・開催日程

次年度も開学記念日に近い6月20日(土)を予定する。開始時間や内容は、今年度を踏襲し、10:00に開始して早々に分科会に引き継ぐ。また木蓮会と共催し、木蓮会総会との同時開催とする。

◆在学生に体験談や仕事のやりがい伝える◆砥部 県立医療技術大の卒業生が旧交を温め、在学生と交流する「ホームカミングデー」がこのほど、砥部町高尾田の同大であり、卒業生が体験談や仕事のやりがいなどを伝えた。

学生の職業意識向上などを目的に2011年から毎年開催しており、卒業生と学生計約180人が参加した。

看護師、保健師、助産師、臨床検査技師の4分野に分かれて、卒業生が働き始めてからの歩みなどを話した。松山赤十字病院の助産師山内秀美さん(31)は、助産師の実践的能力を証明する「アドバンス助産師」の認証を16年に受けたと紹介。「助産師は責任が大きい分、喜びも大きい。天職と心得て、今後も学び続けていく姿勢を大事にしたい」と締めくくった。

助産師を目指したきっかけや仕事のやりがいなどを話す山内さん



茶話会では、学生が仕事の苦労などを熱心に質問。助産学専攻科1年の大本真祐子さん(23)は「たくましく仕事をしている1年目の先輩の話聞いて、自分もそんなふうになりたいと思う」と話した。

(亀井咲希)

木蓮会総会後の屋外風景



2. 臨床検査技師実践セミナー

1) 概要

本企画は、細胞検査士及び臨床検査技師を対象に、講師を招き、甲状腺細胞診の標本作製法、細胞の見方・考え方、報告様式等の総合的な講義および顕微鏡実習では直接塗抹標本及びLBC標本での良性から悪性症例を約40例検鏡し、学ぶ機会とする。

2) 実施主体

愛媛県立医療技術大学

3) 組織 プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 則松 良明

メンバー・協力者 細川 翔

4) 事業内容

(1) 日時：令和元年8月31日（土）12：00～17：30

(2) 場所：愛媛県立医療技術大学 150 階段講義室（講義）及び 560 実習室（実習）

(3) 参加者数：総数 35 名

(4) 実施者と講演内容：

医療法人神甲会 隈病院 臨床検査科 鈴木 彩菜 先生

「甲状腺細胞診の標本作製法と細胞の見方」

日本ベクトン・ディッキンソン株式会社ダイアグノスティックシステム事業部

澤野 真理子 先生

「LBC 現状とその背景」



医療法人神甲会 隈病院 臨床検査科
鈴木 彩菜 先生 ご講義



顕微鏡実習

(5) 参加者の反応

本学卒業生が多く、四国各県、広島、山口、愛知等から参加をしていただいた。顕微鏡実習付き研修会が臨床検査技師にとって関心が高いことがわかった。また、臨床現場での実践に関する質問など多く寄せられ、鈴木先生及び澤野先生よりご回答いただいた。さらに顕微鏡実習の機会が普段なかなかないので、ありがたいとの意見が多かった。

5) 課題と評価

周知の方法について：

- ・セミナーの周知は開催日の 5 ヶ月前から大学 HP にて周知を行った。
- ・参加者にはインターネットからの申し込みをしており、申込完了と同時に完了確認メールを送信した。
- ・今回のセミナーは、甲状腺細胞診の標本作製法、細胞の見方等を習熟することが目的であり、参加者は一様に講演をととても意義深く感じており、顕微鏡実習では技術を自分のものにしようと真剣に取り組んでいた。
- ・開催日は雨天で足元が悪いにもかかわらず多くの方が参加してくださった。

3. 思春期保健スキルアップ研修会

第1回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、他機関の関係者の性教育を含めた健康づくりを知ることができる。また、思春期の子ども達のコミュニケーション力、性の自己決定力を育み、支援者が生涯を通じた健康づくりの視点にそって他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教育を実施するための拠点づくりの場とする。

(2) 対象者

愛媛県内の小学校、中学校、高等学校養護教諭、教諭、保健主事、PTA 関係者、思春期保健に関わる保健師、助産師、看護師等

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

共催 愛媛県中予保健所 健康増進課

3) プロジェクトメンバー

企画者：愛媛県立医療技術大学 中越利佳

- ・地域交流センター：豊田ゆかりセンター長、瀧本千紗、江崎ひろみ
- ・愛媛県中予保健所健康増進課：青野桂子、松浦仁美、麓由香里、高森快海

4) 事業内容

(1) 日時 令和元年9月1日(日) 13:00～15:00

(2) 場所 愛媛県立医療技術大学 南棟1階 116教室

(3) 参加者数 68名

(参加者内訳)養護教諭：17、教諭：1、保健師：17、助産師：11、

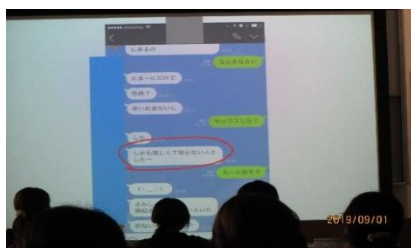
保育士：1、精神保健福祉士・産業カウンセラー：1、相談員：1、スクールカウンセラー：1、大学教員：6、学生：7、その他：5

(4) 実施者と実施内容

① 講演

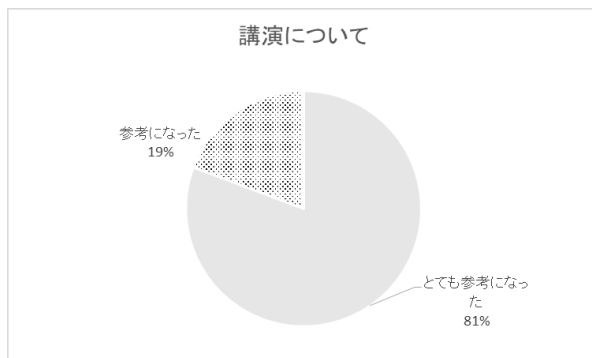
「婦人科外来、twitter、掲示板などから見えてくる思春期の子ども達の現状」
ウイメンズクリニック かみむら 院長 上村 茂仁 先生

② 意見交換会・質疑応答



(5) 参加者の反応

参加者アンケートの結果（アンケート回収率 98.3%）



《自由記載より抜粋》

- ・思春期を対象とした事業を担当しているので、大変参考になりました。ありがとうございました。母校に保健師として戻ってこられてとても嬉しかったです。
- ・上村先生のお話を聞いて、子どもたちの現状から見える心の声を知ることができて良かったです。SNS は怖いものという先入観が大部分を占めている私には子どものことを深く知るためには、SNS の使い方を考えていこうと思いました。
- ・具体的なことを教えていただいたので明日すぐから役立てそうです。もっともっと声をかけてあげられることがあることに、改めて気づいた気がします。
- ・SNS がコミュニケーション能力を高めるツールの一つというのはとても勉強になった。また、ツイッターで情報を集めるのをとめるのではなく、正しい SNS を教師がすすめる、教えることが大切だとわかりました。
- ・子どもに沿った内容の性教育をしていかなければならないと感じました。正しい安全な SNS を教えてあげる必要は本当にあると思います。学校自体がもっと性についてオープンに話し合える場になるよう取り組みを考えていきたいと思っています。

5) 評価と課題

思春期保健スキルアップ研修会は、平成 25 年度から継続開催し、今回で第 7 回目を終了した。2 学期開始を翌日に控えた日曜日であったが、68 名の参加があり、思春期の子どもたちの現状への関心の高さを感じられる研修会となった。参加者からは、自身の SNS への認識を改めていきたい、実際の子どもの生の声を知ることができてよかったという声が多く聞かれ、学び多い研修会となっていた。参加者の中には、思春期の子どもを持つ保護者の一人として、子どもとともに学べたかったとの声が寄せられた。次年度は、幼児期、低学年の対象やその保護者への性教育のあり方や教材紹介についても検討していく。また、県内で思春期の子どもたちの心と性に関わる関係各所の方々をお招きし、（パネルディスカッション形式で）関係機関の連携と情報共有の場となる研修の方向で検討していく。

第2回思春期保健スキルアップ研修会

1) 趣旨または概要

(1) 目的

思春期保健に携わる関係者が、生涯を通じた健康づくりの視点に沿って、他機関と連携し、組織的かつ継続的に思春期教室や性教育を実施するための体制づくりを行う。

今回は、性教育を幼児期から始める効果や重要性について学び、現場で使える・役立つ性教育教材を紹介することで、関係者の資質の向上を図ることを目的とする。

(2) 対象者

管内市町保健センター保健師、管内の保育士・幼稚園教諭、性教育担当者

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県中予保健所 健康増進課

共催 愛媛県立医療技術大学 地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

企画者

愛媛県中予保健所健康増進課：松浦仁美係長、青野桂子、高森快海、麓由香里

愛媛県立医療技術大学：豊田ゆかり、中越利佳

4) 事業内容

(1) 日時 令和元年 11 月 18 日 (月) 16:30～17:30

(2) 場所 中予保健所 学生実習室

(3) 参加者数 38 名

(参加者内訳)市町保健センター担当者(保健師)10名、管内保育士・幼稚園教諭14名、障害支援センター保健師1名、児童福祉司(保健師)1名、保育指導専門員1名、中予保健所5名、助産師1名、看護実習生5名

実施者と実施内容

① 話題提供 子どもたちにどう伝える？幼児期から始める性教育

愛媛県立医療技術大学 中越利佳

② 話題提供 幼児期から始める性教育の実践

砥部町保健センター 福見早苗

③ 話題提供 幼児期の性教育教材の紹介

中予保健所健康増進課難病母子係 高森快海

④意見交換会



（４）参加者の反応

管内保育所、幼稚園の所長、主任保育士が参加されており、幼児期の性教育を実践するには、若い保育士への教育が重要であるとの声が多く聞かれた。幼児期からの性教育というはまだ早いというイメージであったが、自分たちにもできることがあるとわかったので、できることから取り組んでいきたい。その際には、地域の保健センターの協力もいただきたいとの意見が多くみられた。

5) 評価と課題

第2回思春期保健スキルアップ研修会は、昨年の幼児期の性教育の研修会の反省をふまえ、幼児教育を実践している保育所、幼稚園教諭に参加を呼びかけ実施した。幼児教育の現場でも早い時期からの性教育の必要性が認識され、今後の取り組みを検討する方向性で意見交換会が行われた。次年度は、若い保育士、幼稚園教諭への研修会を検討する。

4. 高校生の生命科学体験プログラム

えひめ高校生生体機能研究プログラム—心臓拍動の解剖生理—

1) 趣旨または概要

(1) 目的

生きた動物を用いた生体機能に関する実験は、生命化学分野や医療系を志している高校生にとって興味が高いものであるにもかかわらず、現在の高校生の教育課程において、そのことを実施することは不可能に近い状態である。また、これまで平成 22 年度～26 年度まで実施されていた「えひめ高校生サイエンスチャレンジ」（生物コース：講師は本学の教員が努めてきた）は毎回定員の数倍と言う高いニーズがあった。事業終了後、生物担当の高校教員の要望もあり平成 27 年度からは本学主催でこの事業を実施してきた。本年度も、高校生の知的探究心に応えるため、昨年度は「筋の収縮力と持久力」というテーマで行った。本年度は「心臓拍動の解剖生理」をテーマとし、両生類であるアフリカツメガエル、哺乳類のヒトおよびマウスを対象に心拍に関する実験を行い各動物の心拍数と心臓の自動性について探求するプログラムを実施した。昨年同様、高いニーズに答えるため、2 回実施した。発表会は参加者全員が集まり、発表 15 分、質疑応答 5 分で行った。

(2) 対象者

愛媛県内高等学校および中等教育学校の生徒

2) 実施主体・連携協力機関

主催 愛媛県立医療技術大学地域交流センター

3) プロジェクトメンバー

岡村法宜、野島一雄（非常勤講師）、臨床検査学科 4 年ボランティア 3 名

4) 事業内容

(1) 日時

実験：第 1 回 令和元年 7 月 27 日（土）、28 日（日）9：30～16：00

第 2 回 令和元年 7 月 29 日（月）、30 日（火）9：30～16：00

発表会：令和元年 8 月 20 日（火） 13:00～15:00

(2) 場所 講義：356 講義室 実習：460 医用工学実習室 発表会：116 講義室

(3) 参加者数 生徒 24 名 学校教員 3 名

（参加者内訳）愛媛県内高等学校および中等教育学校 8 校（各回 4 校）

1 校 3 名（各回 12 名）

実施内容（第 1 回、第 2 回とも同じスケジュール）

講義：① 動物実験に関する教育訓練

② 各実習のねらい

実習：① ラットの解剖（胸腹部・頭部）

② 哺乳類（ヒト・マウス）の心電図、マウス摘出心の自動性

③ 両生類（カエル）の心電図、カエル摘出心の自動性

発表会： 1 校 20 分（発表 15 分 討論 5 分）

実験動物追悼式



（４）参加者の反応

講座の難易度に関しては「やや難しかった 62.5%」であり、大学が行う高校生向け授業としては理想であったと言える。また、参加者は、自らのこれからの学習に役立つものであったし、このような講座を受講する機会があれば次も受講したいと言っている。解剖などを通して生命の尊さの再認識するきっかけともなる一方、医学の発展のためには動物実験の必要性も感じたとのことであった。また、発表までの一連の流れの中で自分達の答えを導き出すことの難しさを感じ、基礎知識をもっと養うために勉学に励みたいと、これからの学習の後押しともなっているとのことであった。

５）評価と課題

今回の内容は生命の尊さの再認識や動物実験の必要性を理解するためには役立ったが、社会としては動物実験を行わない方向での努力も行っているところなので、培養細胞株を使用した生体組織の模擬的再構築や理論生物学を参加者に提示することも時代として必要であろうと考えられる。これからの数年間の参加予定生徒集団としては自らの答えを導き出す訓練がされていないので本年と同様の感想が得られる可能性が高いが、現在の小学生ではこのような教育が開始されているので、その集団が対象となる頃に向けて「自らの答えを導き出す」から一步進んで、教科書の知識は自然現象の極ごく一部しか見ていないこと、自らの仮説を否定するためのプロトコル作成指導、現在の科学パラダイムに囚われない全く自由な発想の誘導、自然科学・社会科学を問わない知識のネットワーク化とプログラム内容とのマッチング、加算型統計ではないカオス理論・べき乗統計なども含めたデータサイエンス的結果解釈の提示などを、組み入れながら高等で質の良いプログラムに熟成させていく必要がある。これを通して高校生に知識の充実だけではなく、科学的教養の高さを実感させることが出来る。

5. ブックトーク&メディカルトーク

1) 概要

子どもの読書活動推進のための「ブックトーク」事業において、医療系進学を志す高校生達が将来を思い描きながら自ら進んで良書に触れていくことを目的とし、「メディカルトーク」を共催し、本学教員が講話を行った。

2) 実施主体

愛媛県立図書館

3) 組織

ブックトーク：愛媛県立図書館 教育専門員 石川幸代先生

メディカルトーク：愛媛県立医療技術大学保健科学部 看護学科 窪田静

4) 事業内容

(1) 実施日時 令和元年 10 月 17 日 (木) 13:40～15:30

(2) 実施場所 県立松山中央高等学校 図書室

(3) 参加者人数 3 年生徒 35 名 (大多数看護・一部療法士等医療系進学希望者)
教職員 1 名 聴講者 1 名 (松前町の図書館員) 合計 37 名

(4) 実施内容

[ブックトーク] 13:40～14:30 県立図書館：教育専門員 石川幸代先生



医師を目指す弟に患者の立場から書いた「医者をめざす君へ」、東日本大震災当時小学生だった3人の高校生が、語りを通して再生していく「16歳の語り部」など、医療を志す生徒の滋養となる書籍6冊を卓越した話術で紹介された。

〔メディカルトーク〕 14:40～15:30 本学看護学科 准教授 窪田 静

「寝たきり老人のいない国」デンマークとはどんな国か。デンマークの進んだ福祉用具は日本の在宅ケアをどう変え、どんな問題が残されているのか、事例を通して具体的に解説し、国際的な視点の大切さも伝えた。



(5) 評価と課題

ブックトークで紹介された書籍は、年齢的にも親近感を覚えやすいものが多く、続くメディカルトークに対し、医療を志す高校生のレディネスが高まった。そのため、専門的・国際的な内容であるにもかかわらず、深い感心を抱いた様子だった。

開催した高校は本学と距離が近いこともあり、今回紹介された本が蔵書となるよう本学図書館に一部をリクエストした。

6. 地域包括ケアシステム強化のための人材育成支援事業

1) 概要

今治・上島地域の地域包括ケアシステム強化を目指し、日常生活圏域において、高齢者の自立支援や介護予防を指向した住民主体の地域づくりが実践できる専門職の育成を図るための会議及び研修会を実施し、本年度が2年目の最終年であった。

本活動は「地域づくりへの協働力を高める専門職研修プログラム 平成30年度～令和元年度」の報告書にまとめた。

2) 実施主体

主 催：愛媛県立医療技術大学・愛媛県

推進のための事務局は本学事務局及び地域交流センターが担当した。

3) 共同機関

今治市・上島町及び今治社会福祉協議会

4) プロジェクトメンバー

大学・今治市関係部局、関係団体等の代表者で組織し、活動した。

人材育成事業推進会議及びその部会として人材育成事業部会で検討した。

さらに大学内に本事業を具体的に検討・推進するワーキングメンバーをおいた。

学内ワーキングメンバー：野村美千江・田中美延里・奥田美恵・入野了士（公衆衛生看護）

田中昭子（老年看護）

鳥居順子（公衆衛生）

宮内清子・豊田ゆかり（地域交流センター）

5) 事業内容

(1) 推進会議等の開催

大学、今治圏域自治体の関係部局、関係団体等の代表者で組織し、事業の方向性や目標、計画等を検討する「人材育成事業推進会議」と、推進会議の下部組織として事業の展開を担う「自立支援事業推進部会」を設置し、事業の円滑な推進に向けて協議を行った。

①人材育成事業推進会議の開催

第1回

開催日時：令和元年6月19日（水）15：00～16：00

開催場所：今治市役所

出席者：委員6名（欠席1名）

その他6名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：専門職研修の実施経過及び今後の活動等について

第2回（開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防のために中止）

開催日時：令和2年3月5日（木）15：30～16：30

②自立支援事業推進部会の開催

第1回

開催日時：令和元年 5 月 9 日（木）10：00～12：00

開催場所：今治市役所

出席者：委員 8 名

その他 6 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：これまでの地域包括ケアシステム強化事業及び今後の活動について
第 2 回

開催日時：令和元年 7 月 8 日（水）14：00～16：00

開催場所：今治市役所

出席者：委員 8 名

その他 6 名（大学、愛媛県、今治市）

議 事：地域包括ケア推進専門職研修の進捗状況及び今後の活動

③学内ワーキング会議の開催

学内のプロジェクトメンバーが大学内において、公開研修・セッション・実践等の研修企画及び活動状況について情報交換及び今後の活動について検討した。

（3）人材育成及び人材プログラムの開発事業

人材育成プログラム開発は、「地域づくりへの協働力を高める専門職研修プログラム 平成 30 年度～令和元年度」報告書（pp4-19）に、本活動の実際は「報告書（pp20-56）に整理した。

特に本年度は、研修生のための公開研修・セッション・現地での実践を通じグループワークする中で、地域づくりへの実践力を高めた。また現地サポーターの支援のもと地域での懇話会を実施し、最終の成果報告会で 2 年間の成果を報告した。

（4）評価と課題

受講生は、2 年間の研修を通じ地域への愛着や関心をもって地域に入ることが地区活動の出発点であり、地域保健福祉活動へのヒントや課題解決の可能性の発見につながることを学んでいた。多職種合同で研修を行う場合、各専門職はそれぞれの理念に基づき大切とする考え方や特徴があるため、グループワークを通じワンチームとなり協働してくことを実感し、最終報告会において、その成果を発揮していた。

また最終成果報告会では、研修生を送り出した関係機関の人達からも良い活動で多くの学びが伝わってきた、今後に期待したいとエールが送られた。

この成果を、今後愛媛県が県内町にむけどのように活用していくか課題であり、大学はその協力を継続する予定である。

7. 麻生小学校児童の大学見学

6年生 大学授業見学 「ともに生きる」学習

1) 趣旨または概要

麻生小学校 6 年生の総合的な学習時間である「ともに生きる」学習の一環として、本学の学生や教職員が自分の夢の実現のために学んでいる様子を見学したり、共に体験活動を行ったりすることによって、将来を考える機会づくりとする。

2) 実施主体・連携協力機関

愛媛県立医療技術大学地域交流センター・麻生小学校

3) プロジェクトメンバー

地域交流センター員

4) 事業

(1) 事前準備

H30 年 12 月 H31 年 1 月	H30 年度の同事業担当者である藤田専門員と麻生小学校教員が次年度の企画準備について検討する。実施の場合、平成 31 年 5 月頃までに小学校から大学へ依頼することとする。
R 元年 9 月	麻生小学校から企画実施希望の連絡を受ける。
R 元年 10 月 15 日	地域交流センター会議で企画案を検討し、小学校との調整や当日準備をすすめる。 当日は 8 : 45 ~ 10 : 00 に A 班 25 名・B 班 25 名、10 : 00 ~ 11 : 15 に A 班 25 名・B 班 25 名の参加人数とし、小学校教員（各班 1 名）が引率する。
R 元年 10 月 30 日	麻生小学校 6 年学年主任から見学依頼文書を受領する。
R 元年 11 月 1 日	麻生小学校 6 年学年主任から校外学習指導計画書を FAX 受領する。

(2) 日時

令和元年 11 月 8 日（金）8 : 45 ~ 11 : 15

(3) 場所

本学構内

(4) 対象者と参加者数

麻生小学校 6 年生 106 名

8 : 45 ~ 10 : 00 : A 班 25 名・B 班 28 名

10 : 00 ~ 11 : 15 : A 班 25 名・B 班 28 名

麻生小学校教諭 4 名

(5) 実施者と実施内容

担当者 宮宇地秀代助教、藤田麻衣子専門員

協力者 佐川輝高助教（臨床検査実習室担当）、瀧本千紗助教（母子看護実習室担当）

泉浩専門員（図書館担当）

1 班（8：45～10：00）53 名

時間	所要時間	内 容	
		A 班 25 名	B 班 28 名
8:45～ 8:55	10 分	オリエンテーション/大学紹介（116）	
8:55～ 9:05	10 分	移 動	
9:05～ 9:15	10 分	図書館見学	臨床検査実習室見学（北棟 5 階）
9:15～ 9:25	10 分	移 動	
9:25～ 9:35	10 分	臨床検査実習室見学（北棟 5 階）	母子看護実習室見学(南棟 414)
9:35～ 9:45	10 分	移 動	
9:45～ 9:55	10 分	母子看護実習室見学(南棟 414)	図書館見学
9:55～10:00	5 分	移 動・トイレ休憩（116）	

2 班（10：00～11：15）53 名

時間	所要時間	内 容	
		A 班 25 名	B 班 28 名
10:00～10:10	10 分	オリエンテーション/大学紹介（116）	
10:10～10:20	10 分	移 動	
10:20～10:30	10 分	図書館見学	臨床検査実習室見学（北棟 5 階）
10:30～10:40	10 分	移 動	
10:40～10:50	10 分	臨床検査実習室見学（北棟 5 階）	母子看護実習室見学(南棟 414)
10:50～11:00	10 分	移 動	
11:00～11:10	10 分	母子看護実習室見学(南棟 414)	図書館見学
11:10～11:15	5 分	移 動	



5) 評価と課題

1 回の参加者が昨年度の 29 名から 106 名に増えたため、1 グループ約 25 名の参加人数に対応可能なスケジュールに変更した。小学生は図書館、臨床検査の機械や実習室、胎児新生児モデルに興味深く体験していた。各 10 分の見学時間を延長することもあったが、移動時間を 10 分確保していたこともあり、全体は予定通り終了した。

2 年生 大学構内見学

1) 趣旨または概要

前年度同様、生活科の「もっとなかよし町たんけん」の学習で、麻生小学校校区で生活したり働いたりしている人々や様々な場所に関心を持ち、親しみや愛着をもって、人々と適切に接したり安全に生活したりすることが出来るようにする。

2) 実施主体・連携協力機関

愛媛県立医療技術大学地域交流センター・麻生小学校

3) プロジェクトメンバー

地域交流センター員

4) 事業計画

(1) 日時

令和元年 10 月 1 日 (火) 10 : 20 ~ 10 : 40

(2) 場所

本学構内

(3) 対象者と参加者数

麻生小学校 2 年生 4 名、引率教員 1 名、保護者 1 名

(4) 実施者と実施内容

令和元年 10 月 1 日 (火) 10 : 00 ~ 10 : 50

担当者 地域交流センター員 (藤田専門員)

協力者 生体情報学 (則松教授、細川助教)

10 : 00 116 教室にてオリエンテーション、質問対応

10 : 20 大学構内探検

~ 10 : 50 150 教室 → 559 血液免疫学実習室授業見学 → 図書館 → 食堂 → 116 教室



オリエンテーション



授業見学

(5) 参加者の反応

- ・ 116 教室は綺麗で 150 教室は大学生が勉強しているような印象の教室だった。
- ・ 看護師も臨床検査技師も難しそうで、自分はこの大学に来られそうにないなあ、と感じた。
- ・ 図書館に置いている本が多くて、しかも難しいものばかりが並んでいる。日本語じゃない本もたくさんありびっくりした。でも、(医療の) 漫画も揃っているとは思わなかった。
- ・ 教室に入るときに上靴に履き替えなくていいので驚いた。
- ・ 食堂で食べて帰りたいかった。
- ・ まち探検でこの大学を選んで良かった。

(6) 評価と課題

事業依頼から実施までの期間が約 3 週間であったが、少人数の 4 名の見学であり時間も 20 分間という短時間の予定だったため 1 名での対応となった。本学に来る前の施設の見学が早く終わったようで到着が予定より 20 分早かった。子供たちは、看護師・臨床検査技師の仕事や資格試験について興味深く話を聴いていた。また、階段がある 150 教室にはとても興奮していた。結局 50 分間の見学になったが子供たちは疲れも見せず楽しそうだった。

なお、前年度末に麻生小学校に対し、翌年度以降も見学希望があるならば年度初めには依頼文を送付するよう伝えていたが内部で情報共有ができていなかったようだ。直前の依頼だと対応に苦慮するため、本学から文書を麻生小学校に発出して依頼文提出を促すこととする。

Ⅲ 調査研究

Ⅲ 調査研究

1. 住民主体の地域づくりが実践できる保健福祉の人材育成 —アクションリサーチによる研修の開発・評価—

1) 趣旨または概要

(1) 研究目的

地域の専門機関で働く保健福祉専門職が、住民主体の地域づくりが実践できるための人材育成研修を、アクションリサーチを用いて開発・評価する。

(2) データ収集期間

平成 30 年 12 月から令和 2 年 3 月

(3) データ収集方法と分析方法：

① プロセス評価：集合研修及びモデル地区活動演習への参加率

② 定量的アウトカム評価：参加者に対するアンケート調査

③ 定性的アウトカム評価：グループヒヤリングによる調査

①②は統計的分析 ③は質的分析を行う

2) 倫理的配慮

大学の研究倫理委員会の承認を受けて実施

3) 研究体制

研究責任者：野村美千江

共同研究者：田中美延里, 田中昭子, 入野了士, 奥田美恵, 鳥居順子, 豊田ゆかり, 宮内清子,

研究協力者：今治市高齢介護課, 上島町健康推進課, 今治市保健センター, 今治市社会福祉協議会, 上島町社会福祉協議会

4) 研究成果の報告と普及

研修参加者及び所属する機関に報告、及び学会にて公表する。

IV 教員の社会貢献活動 報告

IV 教員の社会貢献活動報告

1. 保健医療機関・行政・企業・関係団体が開催する講座や研修の支援

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
野本百合子	公益社団法人 愛媛県看護協 会	本協会の教育委員会活動との関連から、「クリニカルラダー活用検討ワーキング」のメンバーとして、県内医療機関へのクリニカルラダー導入支援のための研修会を企画してきた。令和元年度をもって、活動を終了する予定である。	県内医療機関
豊田ゆかり 野村美千江 田中美延里 奥田美恵 入野了士 田中昭子	愛媛県長寿介 護課 地域交流セン ター	今治地域を対象とした地域包括ケア推進事業の専門職育成研修について、地域交流センターに協力し企画・運営実施した。	保健師、社会 福祉士、生活 支援コーディネーター
野村美千江 越智百枝 田中美延里 中平洋子 奥田美恵 入野了士 窪田志穂 坂元勇太 長尾奈美	愛媛県医療対 策課	県内市町及び保健所等に勤務する保健師等を対象とした保健師スキルアップ研修会（活動報告のまとめ方と学会発表に向けたプレゼンの講義演習、学会発表ポスター作成支援）について、企画と運営をした。	医療対策課地 域看護係
越智百枝	八幡浜市	受講者よりスキル獲得のための継続的な研修の要望があり、昨年度に引き続き、八幡浜市自殺対策研修会の企画・運営の助言を行いソリューション・フォーカスト・アプローチの理論と実際について講義・及び演習を行った。	保健師、看護 師等
田中美延里 奥田美恵 入野了士	愛媛県医療対 策課	令和元年度愛媛県地域保健保健師等研修会（県内保健所が管内保健師等を対象に定期的実施する管内の専門職研修会）について企画・運営についての相談を受け参画した。	医療対策課地 域看護係
窪田静	愛媛県社会福 祉協議会	えひめ福祉用具フェアでの専門職対象セミナー企画、講師選定・交渉、セミナーの運営を行った。	愛媛県内の専 門職

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
窪田 静	日本ノーリフト協会	「バリアフリー2020」「慢性期医療展 2020」「看護未来展 2020」における国際シンポジウムの企画、丁抹側講師と通訳の選定及び連絡調整等を行った。	ノーリフティング国際比較に関心を持つ人材
窪田 静	日本ノーリフト協会愛媛地方会	ノーリフトケアコーディネーター養成研修・ベーシック県内開催第3回、県内出身ノーリフトケアコーディネーターによる地方会主催の第2回、またベーシックに向けた啓発・普及活動としてのプレセミナーの企画・運営に参画した。	日本ノーリフト協会愛媛地方会
窪田 静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会が開催する啓発・普及セミナーにおいて、ポジショニング研究班班員として企画に参画した。	看護師等
豊田 ゆかり 中越 利佳	愛媛県中予保健所	第2回思春期保健スキルアップ研修会を中予保健所主催と本学地域交流センター共催で実施している。今年度のテーマである幼児期の性教育について企画から話し合い、当日の講演も行った。	中予管内市町保健師、保育士、幼稚園教諭
中越 利佳	いのちの懇談会 えひめ	“いのちは授かりもの”や“胎児も人間”との生命観を社会に啓発し、お腹の赤ちゃんを温かく迎える町づくりに向かって毎年、いのちの講演会を開催している。本年は、坂村真民の三女で坂村真民記念館副館長の西澤真美子氏を講師に講演会を実施し、企画、運営にあたった。	一般市民
中越 利佳	愛媛県看護連盟	看護連盟教育支部主催による研修会を企画、運営しており、今年は、看護職に必要な接遇マナーについて講演会を実施した。	看護連盟会員、県内看護職者
今村 朋子	愛媛助産師会 研修会	《東予地区研修企画と運営》 『愛媛の産後ケア』という研修の企画、運営として講師の調整や、司会進行などに携わった。	県内助産師
伊藤 美香	東予ひめじょ 広場「ふわふわ」	「乳幼児蘇生法・異物除去法」「骨盤ケア」「わらべ歌ベビーマッサージ」「母子のための防災教室」の研修を企画、運営。	乳児・母親とその家族
島田 美鈴	愛媛県立中央 病院看護部	臨地実習指導者研修会において、臨地実習指導者の役割および実習指導者に求められる能力や方法について研修会講師として講義を行なった	県立中央病院 看護師（実習指導者）

氏名	主催者	講座、研修会内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	支援 対象者
島田美鈴	愛媛県看護協会	第 39 回愛媛県看護研究学会の講演発表（19 題）の講評を行なった。	愛媛県内看護職員
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会 がん看護専門部会	「がん看護実践能力向上研修」の企画委員およびファシリテーターとして 40 日間研修にかかわり、事例発表会などにも参加し助言指導を行った。次年度も、引き続き、企画委員および研修のファシリテーターとして関わる予定である。	県内看護師
松井美由紀	愛媛県公営企業管理局県立病院課	「愛媛県立看護職員合同研修：看護過程の展開（基礎編）」研修について企画運営から携わり、研修講師として研修を行った。次年度も、3 年目以上の看護師を対象とした「看護過程の展開（基礎編）」の講師として企画からかかわっていく予定である。	県立病院看護職員
松井美由紀	愛媛県看護協会	看護管理者教育委員として、研修企画運営評価をするとともに、「ファーストレベル：人材育成」の講師としてかかわった。	県内看護師
松井美由紀	四国中央病院看護部	看護記録について、看護記録委員会から依頼を受け、看護記録に関する研修会企画等の助言および講義を実施するとともに、看護記録のフォーマットや電子化記録の助言指導を行った。	四国中央病院看護師
江崎ひろみ	砥部病院ケアサービス(株)	「高齢者の健口教室」の運営、体操指導方法、口腔ケア、食事について相談を受け、研修会企画・講師として 3 回実施した。	専門職：介護福祉士・看護師・作業療法士・調理師
山岡源治	香川県臨床検査技師会	世話人会の一員として、香川県臨床検査技師会・四県合同血液検査研究班「初任者研修会」および「形態検査研修会」の企画立案に関わり、9 月 28 日、29 日香川大学医学部にて研修会を開催し、顕微鏡実習の指導技師を務めた。	四国地区臨床検査技師
	保健医療機関、行政、企業、関係団体など開催の講座、研修の支援合計数		22 件

2. 保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言

氏 名	テーマ（事業名・研究課題）	事業内容（関わり方も含めて） 研究方法および結果	メンバー構成と 所属	成果の 公表
野本百合子	県立4病院研修ジェネラルコース 「看護研究の基礎」	県立4病院研修の「看護研究の基礎」に関して、研修内容企画段階から相談にのるとともに、講師も担当し、提出された研究計画書に対する助言・指導を行った。	県立4病院看護師 (4年目～10年目)	各病院内看護研究発表会、県病院学会等で発表予定
	保健医療機関・企業・関係団体との共同研究への参画 行政の事業や保健福祉計画等への参画・助言数			1件

3. 保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
草薙康城	一般	愛媛県の事業である「生涯を通じた女性の健康支援事業」における不妊相談アドバイザーとして、不妊症患者の相談を行った。	面談（心と体の健康センター）
脇坂浩之	愛媛大学耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和元年４月から令和２年３月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	市立宇和島病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和元年４月から令和２年３月までの頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
脇坂浩之	県立中央病院耳鼻咽喉科頭頸部外科医師	令和元年４月から令和２年３月までの耳鼻咽喉科患者、頭頸部癌患者、甲状腺癌患者の治療方針に関する相談、診察依頼、手術支援	電話・往診
野本百合子	専門職：看護師（県内病院）	院内教育プログラムとして、看護研究を推進するにあたり、その活動を支援するシステムについて相談を受けた。	面談
窪田 静	介護福祉士	障害者施設の浴室及び居室へのリフト設置についての相談を受け、訪問による指導・助言を行った。	訪問
窪田 静	介護福祉士	障害者施設へのリフト設置後の対応についての相談を受け、訪問による指導・助言を行った。	訪問
窪田 静	介護福祉士、福祉用具専門相談員	障害者施設利用者へのリフト導入についての相談を受け、訪問による指導・助言を行った。	電話・メール
窪田 静	介護福祉士	高齢者施設での利用者の褥瘡ケアについての相談を受け、助言を行った。	電話・メール
窪田 静	介護福祉士	高齢者施設での利用者の移乗方法についての相談を受け、助言を行った。	電話・メール
窪田 静	介護福祉士	訪問介護での利用者の拘縮ケアについての相談を受け、助言を行った。	来校・電話・メール
中平洋子	看護師	学会発表に向けて、研究論文の内容とまとめ方について助言を行った。	訪問
中平洋子	看護師	学会発表に向けて、研究論文の内容とまとめ方について助言を行った。	訪問
入野了士	保健師	学会発表に係る抄録作成とポスター発表の内容・方法について相談を受け、助言を行った。	来校・電話・メール

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
入野了士	保健師	若手保健師による地区活動のまとめについて、抄録作成と口演発表の内容と方法について相談を受け、助言を行った。	来校・メール
窪田志穂	看護師	病棟での活動報告作成に係る参考文献について相談を受け、助言を行った。	来校
豊田ゆかり	看護師	本学の研究生を終了した看護師の論文指導・今後の進路について対応した。	面接
豊田ゆかり	保健師	仕事に関係する調査に関する相談に対応した。	面接
中越利佳	一般	娘さんの妊娠経過の相談と分娩施設の選択について相談を受け、施設の紹介を行った。	電話
今村朋子	助産師 (県内施設勤務)	卒業生による今後の進路について相談があり、新しい職場への勤務変更についての助言を行った。	面接
今村朋子	助産師(複数) (県内施設勤務)	助産業務の手順や最新の根拠についての相談があり、情報提供などの支援を行った。	メール・面接
今村朋子	県内産科医療施設 (複数)	県内産科医療施設から、助産師不足のため、人材発掘の依頼があり、専攻科修了生のネットワークを活用し、助産師募集の情報提供を行った。	メール
伊藤美香	一般	娘さんの進学相談に対応した。	電話
伊藤美香	助産師・看護師	文献検索について相談を受け、図書館の利用を含め対応した。	メール
島田美鈴	一般	腰痛緩和方法について相談を受け、腰痛に効果のある体操を伝えた。	直接
島田美鈴	看護教員	大学院の授業に関して、どのように行っているのかについて相談を受け、自己の経験からゼミ形式の授業について情報提供した。	直接
島田美鈴	看護職	大学院博士課程を目指す看護職の方から、入学後のカリキュラムや学習(通学の頻度や課題)などに関する相談を受け、自己の経験を元に情報提供を行った。	直接
松井美由紀	専門職: 看護師	看護記録についての相談を受け、助言をした。	メール
松井美由紀	専門職: 看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	メール
松井美由紀	専門職: 看護師	新人看護師への教育に関する相談を受け、助言をした。	直接

氏 名	相談者	相談内容と対応	相談方法
松井美由紀	専門職：看護師	看護記録及び記録監査についての相談を受け、助言をした。	メール
永井さつき	一般	介護が必要となってきた高齢者の入所施設について相談を受け、情報提供・助言を行った。	電話
永井さつき	一般	認知症高齢者のデイケアについて相談を受け、情報提供・助言を行った。	電話
宮宇地秀代	専門職：看護師（県外病院）	新人看護師への教育について相談を受け、助言を行った。	来校
岡村法宜	高等学校理科教員（県内の高等学校）	石鎚黒茶のリラックス効果に関する課題研究の指導・助言を行った。また、脳波、脳血流記録システムの作製し、貸し出した。	メール、電話、往訪・来訪
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	香川県臨床検査技師会・四県合同血液検査研究班「初任者研修会」における基礎講座の講演について相談を受け、指導を行った。	メール・訪問
山岡源治	専門職：臨床検査技師（香川県の病院）	臨床検査合同地方会一般演題の抄録について相談を受け、指導を行った。	メール
	保健医療機関・行政・企業・関係団体に勤務する専門職や一般の方の相談対応合計数		37 件

4. 患者・家族会、NPO法人、専門職グループなどの支援

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
中西純子	高次脳機能障害者を支える会（家族会）「あい」	愛媛県内唯一の高次脳機能障害者と家族の会。毎月1回の例会で、当事者とのレクリエーションや家族との情報交換、相談支援をしている。	顧問として相談、助言
野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 森敬子 大野祐子	看護技術教育検討会 （愛媛県下の看護職養成機関に所属する教員）	愛媛県下の看護師養成機関に所属する教員によって結成され、看護技術教育に焦点をあてた検討会である。共同で研究活動を行うとともに、県内看護教員を対象とした夏合宿の開催、報告書の発行等、看護技術教育の向上に向けた活動を実施し、情報の発信・交換を行った。	事務局の担当 学習会のための会場確保 会員として、定例会議、夏合宿の企画・立案などの活動に参加
野本百合子（総括・企画・運営） 徳永なみじ・森敬子・大野祐子（企画・運営） 岡田ルリ子・香川里美（運営）	愛媛県看護教員 継続教育研修 （愛媛県下の看護職養成教育機関に所属する教員）	愛媛県の事業として実施された左記研修会の企画立案段階から関与し、研修会Ⅰ・Ⅱの2回にわたり、研修会開催時の運営にあたった。	研修会の企画立案 外部講師との連絡・調整 研修会でのファシリテーター・司会 会場の調整・提供
香川里美	香川県宇多津町ボランティア連絡協議会加盟団体「TCNU（トランスカルチャーネットワークうたづ）」 構成メンバー：保健師、看護師、障害当事者他約30名	健常者と障害当事者がともに交流する中で、対応で助け合える関係を作り、障害の有無や種別に関係なく、誰もが安心して住みやすい街づくりを目指す活動を行っている。TCNUの会員として、宇多津福祉の店（バーディ・バーディ）にて、精神障害者・身体障害者の情報交換・学習の場の支援を行った（5月）。	学習会内容の企画運営の協力、参加 情報交換の参加

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
越智百枝	症例検討会	県下のアルコール依存症を支援する看護職、精神保健福祉士、医療ソーシャルワーカーなどが集まり、年に6回、症例検討を行い、アルコール依存症者の支援の質の向上を目指している。	アルコール依存症者及び家族の対象理解、支援方法についての助言を行っている。
窪田 静	医療法人北辰会	県内でいち早く医療・高齢者福祉・障害者福祉のサービスを総合的に提供しているグループの一つ。県内の医療機関としていち早くノーリフティングケアに着目し、研修を重ね、人材育成をしている。看護部長と事務長をトップに据え、組織的に取り組み始めたところである。	病院、施設、在宅で、ノーリフティングケアを推進していく方略について継続的に支援
窪田 静	医療法人朝陽会	指導を行った福祉用具活用をて・あーとと共に複合的に推進し、専門誌連載、書籍出版、視聴覚教材作成を共同で手がけてきた。県内の様々な研修会はもとより、看護技術学会をはじめとする全国的な団体での講演、講師活動も行うようになってきている。	スタンディングリフトの利用困難な事態の解明・解決支援
窪田 静	一般社団法人日本ノーリフト協会	持ち上げない介護、抱え上げない看護を推進	様々な事業についての相談役
窪田 静	一般社団法人て・あーて推進協会	手を用いた看護の技を開発・啓発	愛媛県内での啓発・普及活動のサポート
窪田 静	株式会社いうら	開発及び教育への助言	来校、訪問
窪田 静	豊島株式会社	技術開発への助言	来校、訪問

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
入野了士	公衆衛生看護活動に関する自主学習会「ざくざく」 構成メンバー：愛媛県内の保健所・市町・地域包括支援センター・行政機関等に就業している保健師 約 30 名	愛媛県内の保健所・市町等で活動する保健師たちが、地域における健康づくり活動について研鑽することを目的に自主的に結成した学習会で、17 年目を迎えた。 隔月開催により、令和元年度は、自身が行う保健福祉活動を前向きに発信することを目的に、「学びあい、語りあい、成長する」をテーマにメンバー各自が年度当初に立てた目標に向けて実践し、5 回の学習会で報告・共有し、討論を行った。グループワークを多く取り入れ、幅広い世代・部署のメンバーが意見交換ができるように、運営方法にも工夫を取り入れている。	学習会内容の企画運営の助言や実施
中越利佳 伊藤美香 瀧本千紗	NPO 法人ラ・ファミリエ	病気のある子どもと家族を支援する団体により、エミフル MASAKI でゆめプロジェクトこどものいのちと体を守るお仕事体験が年に 1 回開催される。医師・看護師・助産師・救命救急士などのお仕事体験を行う中で、助産師ブースは、新生児のだっこや着替えなどを人形を使用して子供たちが体験する。	助産師のブースを担当
中越利佳	いのちの懇談会えひめ エンブリオえひめ	妊娠 SOS ホットライン、エンブリオ基金（1 円募金による出産支援）、生命尊重啓発セミナーの企画・運営	会員として活動に参加、セミナーの企画・運営および勉強会講師

氏 名	支援した会の名称と構成メンバー	支援した会や団体の特性（目的、活動内容、今後の予定など）	教員の役割 支援内容
井上明子	NPO法人子育て・発達支援ネットワークはぐくみ	観音寺市保健センターで行われるパパママ教室において、発達障害のある子どもの本人・家族に対する支援を行う団体による講演依頼が年に2回ある。歯科・小児科・助産師・心理士・薬剤師などの職種が出産・育児について講演を行う。	助産師の講演を担当
中越利佳 瀧本千紗	愛媛県産婦人科医会	医師会より愛媛助産師会に協力依頼された「おぎゃー献金 56 周年記念・第 47 回 良い子を産み育てる妊婦の日」イベントにおいて妊婦およびその家族に対し、沐浴体験や相談対応等を行った。	助産師のブースを担当
	患者・家族会、NPO 法人、専門職グループなどの支援合計数		16 件

5. 行政や各種関係団体の理事・委員等の活動

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子	日本看護科学学会	看護学の発展、人々の健康と福祉に貢献 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	代議員
中西純子	日本がん看護学会	がん看護学の発展を目的とし、学術集会開催、学会誌の発行、研究推進活動、等。	学会誌査読委員
中西純子	日本看護学教育学会	看護学教育の発展に寄与することを目的に活動 学術集会の開催、学会誌の発行、関連団体との連携、 委員会活動	評議員 学会誌査読委員
中西純子	高知女子大学看護学会	高知女子大学看護学会の発展に貢献。主な事業は、学術集会開催、学会誌等発行、学会員の交流など 左記学会の論文査読を年 1 件程度担当	学会誌査読委員
中西純子	愛媛県ナースセンター運営委員会	ナースセンターの運営について検討 年 2 回委員会開催	運営委員
中西純子	看護職員確保・県内定着推進協議会	愛媛県内の医療・福祉を担う看護職員の確保・定着を推進し、併せて看護の質の向上を図ることを目的に平成 28 年より設置された。	協議会委員
中西純子	愛媛県国民健康保険運営協議会	市町村国保の安定的な財政運営や効率的な事業の確保等に関し審議する	委員（公益代表）
中西純子	愛媛県医療費適正化計画推進会議	医療費適正化計画の策定、見直し、計画の進捗状況、評価に関すること、医療費の調査及び分析に関すること、等	委員（学識経験者）
中西純子	高知県立大学看護研究倫理審査委員会	左記大学の倫理委員会が適正に機能しているかどうか、外部委員として参加	外部委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
中西純子 鳥居順子 野村美千江 越智百枝 島田美鈴 田中美延里 窪田 静 中平洋子 中越利佳 枝川千鶴子 松井美由紀 田中昭子 金澤知典 奥田美恵 入野了士 永井さつき 江崎ひろみ 窪田志穂 長尾奈美 坂元勇太 瀧本千紗 宮宇地秀代 高橋博子 西森旬恵	日本公衆衛生看護学会第8回学術集会	2020年1月11-12日に愛媛県松山市で開催された日本公衆衛生看護学会第8回学術集会において、企画・運営の参画・協力を携わった。	実行委員 企画委員 協力委員 事務局員
草薙康城	愛媛県産婦人科医会	愛媛県における、母子の生命、健康を保護するとともに、女性の健康を 保持・増進し、もって国民の保健の向上に寄与することを目的とする。	常任理事（広報、学術、がん対策担当）、会報編集委員
草薙康城	日本妊娠高血圧学会	妊娠高血圧症候群に関する研究の発展、知識の交流を図り、もって医学の進歩に寄与する。	理事
草薙康城	愛媛県生殖医療研究会	愛媛県における生殖医療を向上させることを目的とする。おもな事業は、学術研究会の開催。	世話人
草薙康城	日本産科婦人科学会	日本産科婦人科学会専門医研修施設の選定、専門医の認定を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
草薙康城	愛媛県生活習慣病予防協議会委員	愛媛県における検診制度等を立案する。	委員
草薙康城	愛媛県産婦人科臨床セミナー	愛媛県内における産婦人科医師に対する臨床的な支援を行う。	世話人
草薙康城	愛媛県医師会医療事故調査委員会	医療事故発生時の第三者として院内事故調査委員会に加わる。	支援医
草薙康城	順風会精度管理委員	がん検診、特定健診の精度管理を行う。	精度管理委員
脇坂浩之	日本耳鼻咽喉科学会愛媛県地方部会	全国の医療安全情報を収集分析し、県下の学会員への医療安全の啓蒙および指導を行う。	医療安全委員
脇坂浩之	愛媛医療解剖教育研究会	県下の医療系学校の解剖学教育教員が集まり、コメディカルの解剖学教育のありかたについて研究および実習を行っている。	監事
鳥居順子	愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会	愛媛県において、土壌汚染対策法に基づく指定区域の指定または解除、汚染除去等の措置等について専門的見地から調査検討するために設置されている。	委員
鳥居順子	愛媛県公害審査委員候補者	愛媛県において、公害紛争処理法に基づき公害をめぐる紛争の簡易迅速な解決を図るために知事があらかじめ委嘱し名簿を作成しておく。	候補者
鳥居順子	愛媛県国民健康保険審査会	愛媛県において、国民健康保険法に基づき保険給付に関する処分他の処分に不服がある者の審査請求を受けて審理する。	委員
鳥居順子	愛媛県開発審査会	都市計画法第 78 条及び愛媛県開発審査会条例に基づき、開発許可処分等についての審査請求に対する裁決と、市街化調整区域で行われる開発行為で愛媛県が許可する案件の審議を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
鳥居順子 入野了士	愛媛県ビッグデータ活用県民健康づくり協議会、事業分析ワーキンググループ	愛媛県の健診・医療・介護に係る客観的なデータに基づく全県的な疾病予防や健康づくり等を推進し、健康寿命の延伸、医療費の抑制等をはかるために設置されている。 県ビッグデータの分析、検討、資料化を行った。	委員
鳥居順子	砥部町介護保険サービス事業者選定委員会	砥部町における地域密着型サービス等の介護サービス基盤整備の充実を図るため、介護保険サービス事業者を公募し、厳正かつ公平に審査する。	委員
金澤知典	一般社団法人電気学会 非整備環境現場に駆動されたパターン認識技術の応用 協同研究委員会	パターン認識技術とその応用に関し、特に十分な条件整備ができない環境の現場において国内外で開発されている新しい技術や手法、人が関係する環境全般でのパターン認識の応用に必要な技術、さらに人間の視覚感性与パターン認識技術の応用について、調査・研究を行うことを目的とする。	委員
金澤知典	一般社団法人電気学会 知・技の伝承と複合現実型 実応用協同研究委員会	人文、芸術、教育、スポーツ、健康、福祉、産業といった様々な分野の専門家がコラボレーションすることで、人間の知覚、認知、行動、技能を解明し、複合現実感技術を用いたより効果的・効率的なモノ・コトの五感センシング、マイニング、モデリング、レンダリング、インタラクション、訓練・伝承法や、新たな活用法等といった、知・技の伝承と実応用化に向けた共同研究を行うことを目的とする。	委員
岡田ルリ子	愛媛県保健師助産師看護師 臨地実習指導者講習会運営 協議会	保健師助産師看護師臨地実習指導者講習会の充実をはかるために、受け入れ施設における臨地実習指導者の実態把握、指導体制の整備に関すること、講習会の企画・運営・評価に関すること、等を協議する。	委員長
野本百合子 岡田ルリ子	愛媛県准看護師試験委員会	保健師助産師看護師法第 25 条の規定による准看護師試験委員として、試験問題や行政処分等にかかわる事項を協議する。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	公益社団法人 愛媛県看護協会	本協会は、愛媛県内の看護職の教育、看護制度や業務改善、医療安全対策など、看護職の資質向上と看護職が活動する場の改善の他、地域住民への看護活動、ナースの再就職支援などを目指して活動している。また、年1回、愛媛県内の医療施設・看護師養成教育機関などの研究活動の推進を目的に、愛媛看護研究学会を開催している。	理事（教育担当） 第39回愛媛看護研究学会実行委員
野本百合子	新人職員研修 推進協議会 （愛媛県看護協会）	本協議会は、県内に就業するすべての新人看護職員の研修体制を整備し、県民の健康の増進と福祉の向上に資することを目的に設置され、新人看護職員の研修体制及び指導者の育成のための検討や研修会を開催している。	委員
野本百合子	公益社団法人 日本看護科学学会	本法人は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献することを目的とし、学術集会の開催、学会誌等の発行、研究活動の推進、国内外の関連学術団体との協力と連携、研究論文の表彰、国際的な研究協力の推進、人々の健康と福祉に貢献するための社会活動、その他本会の目的達成に必要な事業等の事業を行っている。	代議員
野本百合子	一般社団法人 日本看護学教育学会	本学会は、看護学教育の発展を図り、看護職者による専門的な活動の質向上に寄与することを目的とし、学術集会の開催、学会誌の発行、看護学教育に関する研究および情報交換、研究助成、看護に携わる者の人材育成、国内外の看護学教育に関連する諸組織との連携等の活動を展開している。	査読委員
野本百合子	千葉看護学会	本学会は、看護学の基盤をより豊かにかつ強固にしていく研究へと推進することを目的とし、現実の諸問題を解決するために実践的研究を一層充実させるとともに、会員相互の学術的研鑽を図り、看護学の発展に寄与する種々の学術活動を行っている。	査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野本百合子	えひめ女性財団	愛媛県における男女共同参画社会づくりを推進することを目的とし、男女共同参画社会づくりに関する意識啓発をはじめ、女性の交流促進とネットワークづくりなど社会活動の促進等を基本方針とした事業や愛媛県男女共同参画センターの管理運営などを行っている財団の活動や予算計画に対して評議員としての意見述べるなどの役割を担っている。	評議員
野本百合子	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	評議員
野本百合子	一般社団法人 日本看護技術 脱会	本法人は、看護職者らが行っている様々な看護技術の効果とメカニズムを科学的手法を用いて明らかにし、また、経験的知識を発掘してその根拠を探索すること等により、さらなる看護技術の開発に関わる研究活動を通して、看護学の学術の発展に寄与すると共に、看護実践の向上に貢献することを目的としている。その目的を達成するため、学術集会の開催、学会誌の発行、研究の促進、日本学術会議との連携等の活動を行っている。	編集委員
野村美千江	全国保健師教育機関協議会	全国の保健師教育機関の発展と、保健師教育の充実を図るために全国規模で、教員研修会、保健師教育課程の検討、保健師国家試験対策、地区別のブロック活動を実施している。	特別プロジェクト委員、会誌査読委員
野村美千江	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	理事・査読委員
野村美千江	日本公衆衛生学会	公衆衛生学の進歩発展と会員相互の研鑽を計り、わが国公衆衛生の向上に資することを目的とする学会。評議員は会長・副会長の選出や学会総会に付議する事項等を審議する。	評議員
野村美千江	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の4領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	査読委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
野村美千江	日本看護協会	自治体保健師の効果的な人材確保のあり方検討委員会で、保健師の育成・定着促進に向けた取り組みについて情報収集し、人材確保モデル案を作成し、事業展開する。	委員
野村美千江	松山市社会福祉審議会	松山市における福祉行政施策や事業の実施・評価について協議する。民生委員審査専門部会において民生委員を審査する。	委員
野村美千江	砥部町総合計画等審議会	第二次砥部町総合計画の進捗状況の審議に、町内の高等教育機関代表として参加し意見を述べる。	委員
野村美千江	砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証	砥部町まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証や地方創生交付金の効果検証について質問し、意見を述べた。	委員
野村美千江	砥部町国保運営協議会	国民健康保険の運営に関し、必要な意見の交換や調査、審議、さらに町長への意見 具申等を行う。	会長
越智百枝	大学基準協会 大学認証評価委員会	大学の適合を審査する評価委員。1年間かけて担当した大学の適合を審査する。	評価委員
越智百枝	公益財団法人 星川奨学会	本法人は、愛媛県内の大学又は大学院に在学する者（留学生を含む。）で、学業優秀、品行方正でありながら経済的理由により修学が困難な者に対し、奨学援助を行うことによって社会有為の人材を育成することを目的とし、奨学金の給付を中心とする事業を行っている。	奨学生選考委員
越智百枝	愛媛県精神医療審査会	平成 26 年 8 月より審査会委員の委嘱を受け、毎月 1 回措置入院患者及び医療保護入院患者の入院届、定期病状報告の事前審査を行い、審査会に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	愛媛県依存症対策連絡調整会	愛媛県依存症対策連絡調整会委員として会議に出席し意見を述べた。	委員
越智百枝	愛媛県自殺対策計画策定委員会	3 年間の実績を評価し、計画の見直しを行い、計画策定した。	委員長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
越智百枝	松山市自殺対策推進委員会	松山市住民の自殺対策の推進を目的とする。計画の見直しを行い、計画を策定した。	委員長
越智百枝	松山市社会福祉施設整備審査会	平成 29 年 4 月より委嘱を受け、審査を行った。	委員
越智百枝	八幡浜市自殺対策ネットワーク会議	委員として八幡浜市自殺対策計画の策定を行った。	委員
越智百枝	日本看護研究学会専任査読員	日本看護研究学会選任査読委員として学会発表抄録の査読を行った。また学会誌への投稿原稿の査読を行った。	査読委員
越智百枝 中平洋子	日本精神保健看護学会査読委員	精神保健看護学の発展をはかり、広く知識の交流に努め、もって人々の精神の健康と福祉に貢献することを目的とする学会。学会誌への投稿原稿の査読を行った。（越智百枝：平成 29 年 7 月より委嘱）	査読委員
越智百枝 中平洋子	高知女子大学看護学会査読委員	看護学の進歩発展と会員相互の研鑽・親睦を計り、もって看護の向上に資することを目的とする学会。高知女子学会誌への投稿原稿の学会誌への査読を行った。	査読委員
越智百枝	日本アルコール問題関連学会愛媛大会	2019 年 8 月 31-9 月 1 日に愛媛県伊予市で開催の日本アルコール問題関連学会愛媛大会の、企画運営に参画した。	常任実行委員
越智百枝	日本看護研究学会企画委員	2022 年 8 月に愛媛県松山市で開催予定の日本看護研究学会学術集会の企画運営に参画している。	企画委員
田中美延里	日本地域看護学会	地域看護学の学術を、行政・産業・学校・在宅の 4 領域の観点で捉え、地域看護学の発展に寄与する研究、実践、教育を追究していく学会。	代議員・学会誌査読委員
田中美延里	日本ルーラナーシング学会	へき地における看護の研究を推進し、日本におけるへき地看護学を確立・発展させることをとおして、へき地の保健医療福祉の向上に寄与することを目的とする学会。	学会誌査読委員
田中美延里	千葉看護学会	看護学の発展と会員相互の学術的研鑽をはかることを目的とする学会。	学会誌査読委員
田中美延里	愛媛県建築審査会	建築基準法の規定に基づく許可申請に対する同意並びに審査請求の議決等を行う。	委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
田中美延里	松山市健康増進計画推進懇談会	松山市健康増進計画の推進に関して意見交換及び意見聴取を行う。	委員
窪田 静	作業療法ジャーナル編集同人	1年間に発行された作業療法ジャーナルを論評・企画を提案し、依頼された論文を査読する。	編集同人
窪田 静	愛媛県社会福祉協議会	えひめ福祉用具フェアを開催するための実行委員会、セミナー作業部会のメンバーとして、えひめ福祉用具フェアの企画・運営にあたる。	実行委員
窪田 静	日本リハビリテーション工学協会	各都道府県に設置された連携協調協議会の中で、介護ロボットのニーズとシーズを調査、協議し、企画案を提出した。	代議員
窪田 静	日本看護技術学会	技術研究成果検討委員会・看護技術学会ポジショニング研究班として、エビデンスに基づく看護技術の啓発・普及活動、研究活動を行った。	班員
中平洋子	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会委員	愛媛県精神障がい者地域移行支援協議会委員として委員会に参加した。	委員
中平洋子 坂元勇太	第36回中四国アルコール関連問題学会	第36回中四国アルコール関連問題学会愛媛大会の企画・運営に参画した。	実行委員
奥田美恵	松前町国民健康保険運営協議会委員	令和元年度松前町国民健康保険運営協議会委員として松前町国民健康保険の適正な運営を図る。	委員
奥田美恵	砥部町健康づくり計画食育推進計画策定委員会	砥部町職員・関係機関・地域住民代表者とともに砥部町健康づくり計画及び食育推進計画を策定する。	砥部町健康づくり計画及び食育推進計画策定委員
入野了士	愛媛県看護協会 保健師職能委員会	人材育成や分野間連携にかかる課題解決等の職能活動として、毎月1回委員会を開催し、研修企画・実施・評価、研究活動実施等を行った。	委員
窪田志穂	日本公衆衛生看護学会	公衆衛生看護の学術的発展と、研究・教育及び活動の向上と推進をめざし、もって国民の健康増進と社会の安寧に寄与することを目的とする学会。	広報委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
徳永なみじ 坂元勇太 高橋博子 長尾奈美 西森旬恵 大野祐子	愛媛県立医療 技術短期大 学・愛媛県立 医療技術大 学・大学院同 窓会 木蓮会	会員相互の親睦を図り、愛媛県立医療技術大学の発展に寄与することを目的としている。理事として、総会・懇親会や同窓会会報の出版にあたる業務、理事会の開催および運営にあたっている。	理事
豊田ゆかり	日本小児看護 学会	小児看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行、国際的な研究協力の推進である。	学会抄録及び 学会誌論文査 読委員
豊田ゆかり	愛媛県慢性疾 患病児等地域 支援協議会	小児慢性特定疾病児童等が成人後に自立することができるよう、地域における支援内容等について検討・協議する。	委員長
豊田ゆかり	愛媛県介護保 険審査会	介護保険制度で要介護認定など市町村が行った行政処分に対する不服申立の審理・裁決を協議する。	委員
豊田ゆかり	松前町介護給 付等審査会	松前町の介護保険給付に関して一次判定結果に基づき二次判定を審査会で協議する。	委員
豊田ゆかり	地域包括ケア システム人材 育成事業 人 材育成事業推 進会議	予防と自立支援を指向した住民主体の地域づくりが実践できる人材の育成及び人材育成プログラムの開発にかかわる、事業の方向性や目標、計画等の検討について検討する。	委員
枝川千鶴子	特定非営利活 動法人 ラ・ ファミリエ	難病をもつ子供たち及びその家族を支援し、もって不特定多数のものの利益の増進に寄与することを目的とする団体	理事
枝川千鶴子	日本看護研究 学会	日本看護研究学会第 45 回学術集会における運営、演題の査読	学術集会実行 委員 査読委員
枝川千鶴子	日本小児がん 看護学会	第 17 回日本小児がん看護学会学術集会における運営	学術集会実行 委員
中越利佳	愛媛県看護連 盟	会員向けの研修会の企画運営、および会員情報ネットワークの整備	教育支部オブ ザーバー

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会 広報委員会	監事：愛媛助産師会の運営 広報委員長：会員向けニュースレター（ひめじょ通信・年1回）の編集・発行、広報グッズ販売管理、メール配信システムの整備を行った。	監事・広報委員長
今村朋子 伊藤美香	一般社団法人 愛媛助産師会 東予地区会	東予地区役員として組織運営に携わることで、助産師活動の活性化と母子保健に貢献することを目的に活動。 研修・イベントの企画運営等	役員
今村朋子	一般社団法人 愛媛助産師会	県内1カ所の助産所機能評価を行った。	評価委員
今村朋子 伊藤美香	2020年日本 助産師会総会 実行委員会	2020年に愛媛で開催される、日本助産師会総会実行委員長として、会議などの開催を行った。	実行委員長 実行委員
井上明子	公益社団法人 全国助産師教育協議会	マンスリーメールの作成とニュースレターの原稿の執筆依頼と原稿の誤字・脱字の確認、校正までを担当した。	広報委員会委員
中越利佳 井上明子 伊藤美香 瀧本千紗	日本助産師学会	第76回日本助産師学会学術集会における演題2本の査読を行った。	学術集会抄録 査読委員
伊藤美香	東予ひめじょ 広場「ふわふわ」	愛媛助産師会の子育て・女性健康支援の一環として西条市丹原町で子育て相談を毎月1回開催。	相談員
藤原紀世子	学生委員会	EPU Festivalにおいて、地域住民、学生家族、高校生と家族を招いてキャンパスツアーを実施し、今後の運営に反映すべく、いろいろな意見を聞いた。さらに幼稚園や小学生とその家族を対象に子供用白衣の試着と写真撮影を行い、盛況であった。	学生委員会
島田美鈴	高知女子大学 看護学会	高知女子大学看護学会の発展と知識交流に貢献する。 主な事業は、学術集会、学会誌発行。	学会誌査読委員
島田美鈴	高知女子大学 大学院がん看護学領域修了生の会『アストラル』	がん看護の質向上のための自己研鑽、情報交換および修了生のネットワーク作りを目的する。 学習会年間計画	副委員長

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
松井美由紀	愛媛県看護協会看護管理者教育委員会	愛媛県看護協会で開催される看護管理者研修「ファーストレベル」「セカンドレベル」の企画・運営・評価を行った。	看護管理者教育委員 委員長
松井美由紀	愛媛県がん診療連携協議会がん看護専門部会	愛媛県内のがん看護の質向上を目的に、プログラム企画・実施・運営および評価をした。	企画委員
松井美由紀	愛媛県看護協会クリニカルラダー活用検討ワーキング	日本看護協会で推進されている JNA ラダーを愛媛県看護協会として愛媛県における病院施設等に推進していくための活動を行った。	ワーキングメンバー
永井さつき	松前町介護基盤整備のためのサービス事業者選考委員会	松前町高齢者福祉計画（第 7 期介護保険事業計画）における施設整備に係る介護サービス事業者の選考のために、委員会や事業者のプレゼンテーションに参加し意見を述べた	委員
江崎ひろみ	日本健康体力栄養学会	体力栄養の知識と技術の進歩・普及発展のために、体力と栄養の関係を研究・研修し、その成果を健康を目指した運動及び栄養の実践活動に応用し、国民の健康増進及び成人病の一次予防に貢献する。主な事業は、学術集会の開催、学会誌等の発行をした。	評議員
山口文徳	日本生理学会	日本の生理学研究を推し進め、国民の健康で快適な生活に貢献する。様々な政府機関や地方自治体、関連する諸学会、さらには大学などの教育機関とも連携を進める。世界の生理学会連合はもちろん、アジア・オセアニア地域の生理学会連合では、主導する役割を果たす。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会	リウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会の運営に参加。	評議員
佐田榮司	有限責任中間法人 日本リウマチ学会中国四国支部会	中国・四国地区のリウマチならびに近縁疾患の研究および診療内容の向上の目的のため設置されている日本リウマチ学会中国四国支部の運営に参加。	評議員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
佐田榮司	愛媛リウマチ研究会	愛媛県内のリウマチ診療の充実を図る目的で設立されている研究会の世話人として活動した。	世話人
檜枝美紀	公益財団法人星川奨学会	公益財団法人星川奨学会が募集する奨学生の選考を行う。	奨学生選考委員
山岡源治	日本検査血液学会	血液検査学の発展と交流に努め、人々の健康と福祉に貢献する。学術集会・研修会の開催、学会誌の発行、標準化事業の推進、国際化、認定制度の推進を基本として活動している。	評議員
山岡源治	四国地区血液検査研究班	各県主催の四国四県合同血液検査研修会の実質的な開催母体として活動している。各県血液研究班班長・副班長および世話人で構成されており、初任者研修会および形態検査研修会の企画し、テキストの編集・作成等を行っている。	世話人
山岡源治	瀬戸フローサイトメトリー研究会	中四国地区において、臨床検査領域におけるフローサイトメトリーの応用、解析法、症例検討など情報交換の場として発足し、年1回程度研修会を開催している。	世話人
山岡源治	瀬戸内血液検査研修会世話人会	中四国地区の血液検査を担当する臨床検査技師を対象に、血液形態検査を中心にした研修会の企画・運営を行っている。	世話人
高田智世	愛媛県衛生検査所精度管理専門委員会	愛媛県内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 衛生検査所精度管理専門委員会に年1回出席した。	精度管理専門委員会委員
高田智世	特定非営利活動法人 生物試料分析科学会	臨床検査分野のみならず、広く生物試料の基礎的研究および分析法の開発に関する研究をすることを目的に設立 中四国地区で開催する支部学術集会の企画・運営のほか、会員相互の親睦および情報交換の媒介、講演会、出版物の発行などを行う。	中四国支部役員
高田智世	一般社団法人愛媛県臨床検査技師会会誌委員会	愛媛県の臨床検査技師の専門性の向上のため、勉強会の開催、会誌の発行、精度管理を実施した。	会誌編集委員

氏 名	委員会や団体の名称	関係団体や委員会等の目的と活動内容	役職名
高田智世	愛媛県科学技術振興会議衛生環境評価専門部会	愛媛県試験研究機関が実施する試験研究課題の外部評価を行う。	衛生環境評価専門部会委員
高田智世	松山市衛生検査所精度管理専門委員会	松山市内の衛生検査所における検査精度の質的向上のため精度管理に関する調査研究および保健所長への助言や衛生検査所の実態分析などを行う。 衛生検査所精度管理専門委員会に年 1 回出席した。	精度管理専門委員会委員
	行政や各種関係団体の理事・委員等の活動合計数		114 件

6. その他（学術集会ボランティアや保健医療機関・行政・企業・関係団体に委嘱されたボランティア活動等）

氏 名	主催者	活動内容 (開始時期、役割、経過、今後の予定など)	役職名
野本百合子 岡田ルリ子 徳永なみじ 香川里美 大野祐子	日本公衆衛生 看護学会	第8回日本公衆衛生学会学術集会の協力員として、学会の運営に携わった。	保健師、看護師
今村朋子 伊藤美香 瀧本千紗	愛媛助産師会 東予さんばフェスタ	今治で初開催となった助産師会のイベント「東予さんばフェスタ」のボランティア活動を実施した。	ボランティア
檜枝美紀	ソルファ・オダ スキーゲレン デ	夏山及び雪山ネイチャーキャンプ 2019 の運営ボランティアとして参加した。小学生に対して、生物を楽しみながら学ぶ方法を伝えた。	小学生
	その他の活動合计数		3 件

V 学生の地域交流 活動報告

V 学生の地域交流活動報告

1. 学生ボランティア登録制度

1) 運用実績（令和2年2月現在）

- (1) ボランティア登録数 個人登録 80名、団体登録 6団体
- (2) 外部団体からのボランティア募集要請件数 13件
- (3) ボランティア活動実績 6件

ボランティア活動実績（平成31年度）

	名称	主催	時期	場所	参加数	活動の内容
1	第14回 愛媛障がい者 スポーツ大会	愛媛県スポーツ・文化 スポーツ局地域 スポーツ課	5月26日 (日)	愛媛県 総合運動公園	6名	競技運営の ボランティア
2	第17回 えひめアビリンピック	独立法人高 齢・障害・求 職者雇用支援 機構	7月13日 (土)	ポリテクセンター 愛媛	2名	競技運営の ボランティア
3	「秋の全国交通安全 運動」交通茶屋	松山南警察署	9月21日 (土)	松山南警察署	5名	交通茶屋運営の サポート
4	こども令和元年 ゆめプロジェクト	認定 NPO 法人 ラ・ファミリエ	10月22日 (火)	エミフル MASAKI	1名	お仕事体験の サポート
5	クリーンアップ作成	愛媛県立医療 技術大学 学生自治会	12月21日 (土)	愛媛県立医療技術 大学周辺	24名	清掃
6	中予地区消防長会 合同訓練における ボランティア	愛媛県中予地 区消防長会	2月20日 (木)	J R 四国旅客鉄道 貨物基地ターミナ ル	13名	傷病者役

ボランティア参加数（延べ）51名

*なお、この制度を経由せず、教員やサークルへの直接依頼により実施しているボランティアもある。

2) 開設についての申し合わせ事項

学生ボランティア登録制度の申し合わせ事項である「学生ボランティア登録サイトの開設について」は本活動報告書に掲載している。

2. 学生サークルおよび学生自治会の地域交流

ボランティア系サークル 6 つの地域貢献活動と学生自治会主催のクリーンアップ作戦について紹介する。

自治会主催 クリーンアップ作戦

自治会長 平良柚稀

今年も行われたクリーンアップ作戦と球技大会では、たくさんの学生・教職員の皆様に参加していただきました。朝から分担して校内の清掃を行いました。落ち葉の数も多く、また雨が降ることも多かったため溝に泥もたまっていたため大変でした。しかし、終わるころには校内の落ち葉はきれいに集められており、至るところが綺麗になっていました。今年も参加者には無料でお昼ご飯の提供をし、ご飯をおいしくいただきました。その日の午後には、球技大会を行いました。今回の球技大会では、あらかじめアンケートを取り人気だったバスケットボールを行いました。先輩後輩関係なく、参加者全員でバスケットボールを時間いっぱい楽しみました。バスケットボールの球技大会を行うことは初めてなので準備やルール設定が大変な部分もありましたが、参加者の皆さんにも手伝ってもらいながら楽しい球技大会ができたため、自治会一同とてもうれしかったです。



手話サークル Sign

部長 芦谷 日菜

私たち手話サークル Sign は、毎週月曜日に講師の先生から手話を学ぶことと、イベントに参加し手話コーラスを披露することをメインとして活動しています。「手話の知識を増やしたい」「将来医療従事者として働く際に手話を役立てたい」「手話コーラスをやってみたい」など、様々な目標や興味を持った人が集まり、手話を学んでいます。

今年度の活動の1つとして、6月8日、昨年に引き続き、指定障害福祉サービス事務所 共同作業所「なかよし村」で行われる「なかよし村まつり」において、手話コーラスを披露する機会を頂きました。まつりに参加している方も一緒に楽しめるように、幅広い年代の方が知っている曲を厳選し、2曲披露するうち1曲は、5曲をメドレーに編集して手話コーラスを披露しました。メドレーはポピュラーな曲が多く、また明るく楽しい曲ばかりだったため、見て下さっている方々も一緒に口ずさんだり手話を真似したりして下さり、心が温まりました。また、本番終了後に手話コーラスを見た方が手話で私たちに話し掛けて下さり、お褒めの言葉と手話の活動を応援する言葉頂いて、本当に嬉しかったです。またその時、拙いながらも手話を使って初対面の方とお話できたことは、私たちの自信にも繋がりました。

学園祭で手話コーラスを披露した際も多くの方から温かい言葉を頂き、すごく達成感を感じました。今後も、Sign の活動を通して様々な人と交流したり手話に触れたりする機会を増やしていければと思います。週に1度、1時間の活動で身に付いている私たちの手話の力は決して大きなものではありませんが、頂いた機会を生かしつつ、部員一同励んでまいります。



STS サークル

部長：茶家千尋 副部長：内田舞

私たち STS サークルは、愛媛県内でのボランティアを中心に行っているサークルです。大学や先生、その他地域団体からのボランティア活動の案内・依頼などの中から、学生それぞれが自身で参加したいボランティアを探し、個人のペースに合わせて参加し、活動を行っています。

様々なボランティアに参加させていただく中で、地域の方々はじめ、多くの方々と出会うことができ、活動を通して人と関わることの楽しさや大切さを学び、感じることができました。また、誰かのために活動することの素晴らしさを感じることができ、自分たちの活動に誇りを持って充実した時間を過ごすことができました。これからもボランティアに取り組んでいき、私たち自身も成長していきたいと考えます。

2019 年度の活動内容としては以下の通りです。

- ・本学のオープンキャンパスにおける学生相談
- ・あしなが学生募金活動のボランティア
- ・第 14 回 愛媛県障がい者スポーツ大会のボランティア
- ・なかよし村のボランティア

学生赤十字奉仕団

部長 石井 沙季

私たちは、献血推進活動や募金活動を中心にボランティアを行っています。献血推進活動では、大学や献血ルームで献血の呼びかけを行っています。ハロウィンやクリスマスのイベントでは、学生が仮装をして呼び掛けたり、献血をしてくださった方へのお礼の品を自分たちで選んで渡したりして、少しでも献血者数を増やすために活動しています。また、月に一度県内の学生で集まって、会議を行ったり、中国・四国ブロックの学生で集まって活動報告をするなどしてより良いボランティア活動の向上に努めています。愛媛県は、中国・四国ブロックに属しており、他県で行っている活動を研究し、一人ではできないことも同じ目的を持った人が集まることで少しでも多くの方に献血していただけるよう人々の関心を高めるために活動しています。愛媛県内の学生だけでなく、他県の学生たちとも協力し、活発に活動しています。

学生赤十字奉仕団に参加し、活動することは、ボランティアの活動意義について深く考えるきっかけとなりました。自分たちが活動を行うことで、献血者数が増え、人々の笑顔を見ることで達成感を感じることもできました。また仲間とうまく連携することの大切さを学ぶことができました。仕事を分担して仲間との協力性を生かし、一つのプロジェクトを進めるといったことは、チーム医療が大切な医療従事者を目指す私たちにとって、それぞれの現場で同僚と協調して、物事を円滑に進められることに生かすことができると思います。採血について学ぶことも多く、呼びかけだけでなく自分が献血に参加したり、正しい知識を友人に広めたりすることで、献血についての理解を深めることのやりがいを感じています。この学生赤十字奉仕団での活動が、少しでも学生たちのボランティアをするきっかけになることを願っています。

Peer サークル

木下 涼音

私たち Peer サークルは中学生・高校生・大学生を対象に「自分のことを大切にしてほしい」、「正しい知識を持ってほしい」という願いで日々活動をしていました。Peer とは「仲間」という意味です。私たち思春期ピアカウンセラーと参加してくれた人が同じ目線・同じ立場で考え、壁のない関係を作るように心がけています。

今年は昨年に引き続き、毎月 1 回のピアカフェを行いました。他の団体を参考に、レイアウトや小物、媒体にも工夫を施し、来てくれた人が心地よいと感じる空間を作っていました。参加してくれた方にも「媒体が分かりやすいので頭に入ってきてやすい。」というお言葉もいただきました。

また、愛媛県各地の中学校・高校・大学・保健所でピアエデュケーションを行いました。自分を見つめ直すという体験を通して「自分自身を大切にする、それと同時に相手のことも大切にする」ということを感じてもらうように対象に合わせて活動していきました。

これからも Peer を知ってもらい、活動の幅が広げられるように精進していきます。



医技タット

部長 宇都宮 千春

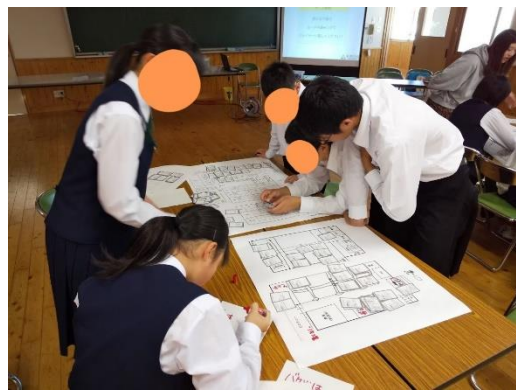
医技タットは、「東日本大震災に学び、南海地震に備える」という理念を掲げ、平成 26 年に設立された災害医療ボランティアサークルです。今年度は、10 月に文化祭で東日本大震災の写真や資料の展示を行いました。そして、東北の地から受け継いだひまわりの種を来場者に配り、東日本大震災を風化させてはいけないということを伝えました。11 月には中学生を対象に HUG 講習を行い、災害に対する意識を高めるきっかけを作ることができました。また、地域の避難訓練にボランティアとして参加しました。地域の消防士の方と協力して、止血等の応急処置の仕方を看護学生として地域住民の方に知ってもらうことができました。他大学の方とも関わりながら、水防工法訓練といった防災活動にも参加しました。

今後も活動を通して学んだことを共有し合って学内だけでなく地域の人にも興味をもってもらえるように防災情報を発信していけたらと考えています。

学祭



HUG 講習



避難訓練



フラサークル ティアレ

部長 菊池菜穂

私たちフラダンスサークルティアレは、毎週月曜日に活動を行っています。月に1度講師の先生をお呼びしてレッスンをしていただき、フラダンスを楽しく学んでいます。活動としては毎年学祭でフラダンスの披露をしている他、地域の方々から依頼があれば様々なイベントでフラダンスを披露させていただいています。全国の大学にフラダンスサークルは数多く存在しますが、地域との関わりの強い医療技術大学である本学は、介護施設、老人ホーム、デイサービス、児童館や集会所など地域住民の方々と交流できる場を中心に活動しています。

フラダンスのモーションには様々な意味が込められています。ステージで披露する際は、その曲のコンセプトやモーションの意味を簡単に説明することで観覧者の方々にもフラダンスの魅力を知っていただき、一緒に体を動かして楽しんでいただけるよう努めています。

私たちのフラダンスはまだまだ未熟ではありますが、今後も講師の先生のもと練習を積み、より多くの方々にフラダンスを通して楽しんでいただけるようにこれからも精進してまいります。



VI 地域への施設開放 状況

VI 地域への施設開放状況

本学の施設を地域住民に開放し、地域交流の場として活用されている。

○ストレッチ教室

活動概要：砥部町保険健康課、健康増進係（保健センター）が主催するストレッチ教室（火曜教室）にあたり、施設開放を行っている。

開放場所：体育館

開放日時：毎週火曜日

4月～9月 10：00～11：30

10月～3月 11：00～12：30

開催回数：年間 37 回

利用者：砥部町住民

利用人数：31 人程度/回、延べ人数 1,157 人

<活動の様子>



VII 參考資料

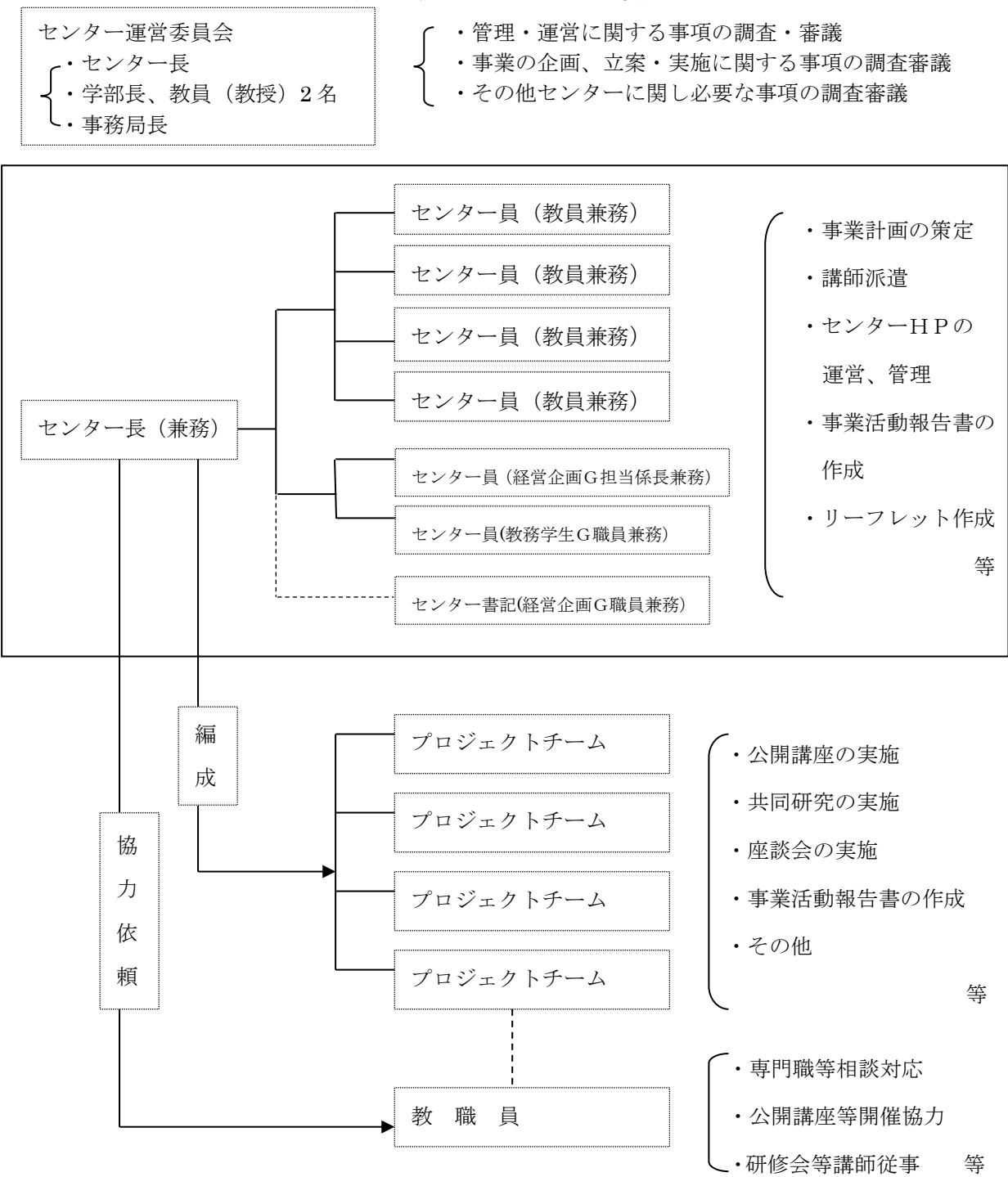
VII 参考資料

地域交流センターの組織（令和 2 年 3 月 31 日現在）

事業の企画、実施のためセンター長の外、センター員 8 名（教員 6 名、事務局職員 2 名が兼務）を配置している。

また、センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（委員 5 名）を設置している。

地域交流センター運営図



公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程

平成 22 年規程第 11 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学学則（平成 22 年規程第 2 号。以下「学則」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 センターは、公立大学法人愛媛県立医療技術大学（以下「大学」という。）が地域に開かれた大学として、県民の保健・医療・福祉の増進に寄与するため、大学の教育研究機能と地方自治体をはじめ地域の関係機関・団体等との連携強化を図ることにより、医療の高度化、地域ニーズの多様化に対応し、県民の要望に応じることができる質の高い保健医療従事者の育成、レベルアップに貢献するとともに、県民及び保健・医療・福祉専門職の交流の拠点としての役割を担うことを目的とする。

(業務)

第 3 条 センターの事業は、次の各号に掲げるとおりとする

- (1) 保健・医療・福祉に関する人材育成に関する事業
- (2) 保健・医療・福祉に関する調査研究に関する事業
- (3) 保健・医療・福祉専門職に対する相談支援に関する事業
- (4) 保健・医療・福祉に関する情報発信に関する事業
- (5) その他大学の地域貢献に関する事業

(地域交流センター長)

第 4 条 地域交流センター長（以下「センター長」という。）は、センターに関する業務を統括する。

2 センター長は、センター事業に関し、センターの職員以外の大学職員に協力を求めることができる。必要と認められる場合は、学長の承認を得て、大学職員を構成員とするプロジェクトチームを編成することができる。

3 センター長の選考に関する事項は別に定める。

(センター員)

第 5 条 第 3 条の事業を企画し、実施するため、センターにセンター員を置く。

2 センター員は教員 5 名、事務局職員 2 名が兼務するものとし、教授会の議を経て、学長が任命する。

3 センター員の任期は、2 年とする。ただし、再任は妨げない。

4 センター員に欠員が生じた場合は、これを補充し、その任期は前任者の残任期間とする。

(地域交流センター運営委員会)

第6条 センターに関する事項を審議するため、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会の組織及び運営に関する事項は別に定める。

(施設の利用)

第7条 センターの施設の利用に関する事項は別に定める。

(委任)

第8条 この規程に定めるもののほか、地域交流センターに関し必要な事項は、地域交流センター長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営委員会規程

平成 22 年規程第 12 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター運営規程（以下「運営規程」という。）第 6 条第 2 項の規定に基づき、地域交流センター運営委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第 2 条 委員会は、公立大学法人愛媛県立医療技術大学地域交流センター（以下「センター」という。）に関する次の各号に掲げる事項を調査審議する。

- (1) 管理及び運営に関する事項
- (2) 事業の企画立案及び実施に関する事項
- (3) その他センターに関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、委員 5 人をもって組織する。

2 委員は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 地域交流センター長
- (2) 本学の学部長及び教授の中から学長が指名する者
- (3) 事務局長

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 委員の欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、地域交流センター長の職にある者をもって充てる。

2 委員長は、会議の会務を総理する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(運営)

第 6 条 会議は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席がなければ、開くことができない。

3 会議の議決は、出席した委員の過半数の同意を必要とし、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聞くことができる。

(庶務)

第8条 会議の庶務は、地域交流センターにおいて処理する。

(補則)

第9条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員長が委員会に諮り定める。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

学生ボランティア登録サイトの開設について

地域交流センター・学生委員会

2011年6月（改正 2014年12月）

1. 開設の目的

ボランティアを必要としている外部の個人や関係団体等からの要請に迅速に対応し、ボランティアに対して意欲のある本学学生及びサークル等に円滑に紹介するために学生ボランティア登録サイトを開設します。本学地域交流センター事業等へのボランティア募集にも活用します。

2. 登録の種類

(1) 個人登録

ボランティアを行う意志のある個人が登録できます。

(2) 団体登録

ボランティア活動を行っているグループが登録できます。グループは、クラブ・サークル・趣味の会等本学の学生で構成されていればどんなグループでもかまいません。

3. 登録の方法

本学ホームページの地域交流センターのページ内に開設した学生ボランティア登録サイトから登録してください。登録は年間を通じて受け付けています。

なお、登録された内容はボランティアの紹介以外に利用されることはありません。

4. 登録、紹介の流れ

